

昭和薬科大学

地域連携センター報告

2022-2024



目次

1. はじめに
2. 地域連携センターの主な出来事
3. 学生の団地暮らし報告
 - <1>学生募集の様子
 - <2>学生参画による夏祭りの様子
 - <3>居住学生同士の交流
4. 町田市薬剤師会との協議会活動
 - <1>大学・薬剤師会 生涯学習講座
 - <2>連携による地域の子育てサポート
 - 1) おくすり・子育て相談カフェ
 - 2) おくすり・子育ておしゃべり会（アウトリーチ活動）
 - <3>認知症の啓発
5. さがまちコンソーシアムにおける大学間連携を目指した活動
 - <1>ユニコムプラザ
 - 1) 大学情報発信
 - 2) SPUかわら版
 - 3) まちづくり交流会
 - <2>さがまちカレッジ
 - <3>相模原・町田（さがまち）地域教育連携プラットフォーム事業
 - 1) 全体の枠組み
 - 2) 昭和薬科大学の活動
6. 科学技術週間（文部科学省）への参画
7. 地域活動実践プログラム
8. その他
 - <1>大学周辺コミュニティとの交流
 - 1) 成瀬台祭り
 - 2) 陽だまりカフェによる中間支援
 - <2>町田ゼルビアとの連携
 - 1) ゼルビーくんの学園祭参加
 - 2) YouTubeチャンネル
 - <3>薬物乱用防止教育の活動
9. 編集後記

1. はじめに

地域連携センターは、発足から丸5年が経過しようとしています。コロナ禍を経て、自粛やソーシャルディスタンスによって制限されていた時間を取り戻すかのように、地域との交流が活発化しているのを実感する日々です。報告書に掲載された活動のほとんどは、前回報告した以降の3年間で飛躍的に活発化しています（前回の報告書→https://www.shoyaku.ac.jp/upload/AdminEvent/246/rei_doc1/CRC20210323.pdf）。

たとえば、一番身近な大学周辺の近隣にお住まいの方々とは、「地域活動実践プログラム」（第7章）を通して、いくつものつながりが生まれています。学生自身が、地域に出て行ってお祭りを手伝ったり、地域の方々がたくさん大学の学園祭に足を運んで下ったりして、往来が頻回となり、顔馴染みとなった学生と住民が笑顔で挨拶する光景が生まれました。大学が所在する成瀬台周辺はもともと地域のつながり作りに熱心な方々がおられ、少し前になりますが、「ホームカミング」という映画の舞台ともなりました。

本報告書では、新たに始まった「さがまち地域教育連携プラットフォーム事業」やセンター開設時から継続する「町田市薬剤師会との協働」、「町田市と連携して進めてきた子育て支援活動」、「団地に居住する学生による地域活性化」、「科学技術の紹介や各種の講座や活動を通じた科学、特に薬学への関心の喚起」、「植物園や各研究室の専門的な知見の発信や広報活動」等、方法や規模を進化させながら続けている様子をご紹介します。

少子高齢化が進み、人口減少社会の中で新たな社会の仕組みが求められています。内閣府や各省庁でも、地域創生という視点から、大学と地域の連携強化を謳うようになっており、地域連携推進室があらたに発足したそうです。今後も大学による地域連携活動の重要性はますます高まるでしょう。図1に示したように、昭和薬科大学の地域連携の方向性は多方面に矢印を向けていますが、今後は広域的な連携にも踏み出していきたいと考えています。

次の5年間に向けて、地域連携センターでは、自分たちからの発信や活動をより活発化させながら、学内からの新しい提案や学外からの楽しげなお誘いを期待するところです。地域に開かれた大学の窓口として、フットワーク軽く、アンテナをしっかりと立てながら、活動していく所存です。

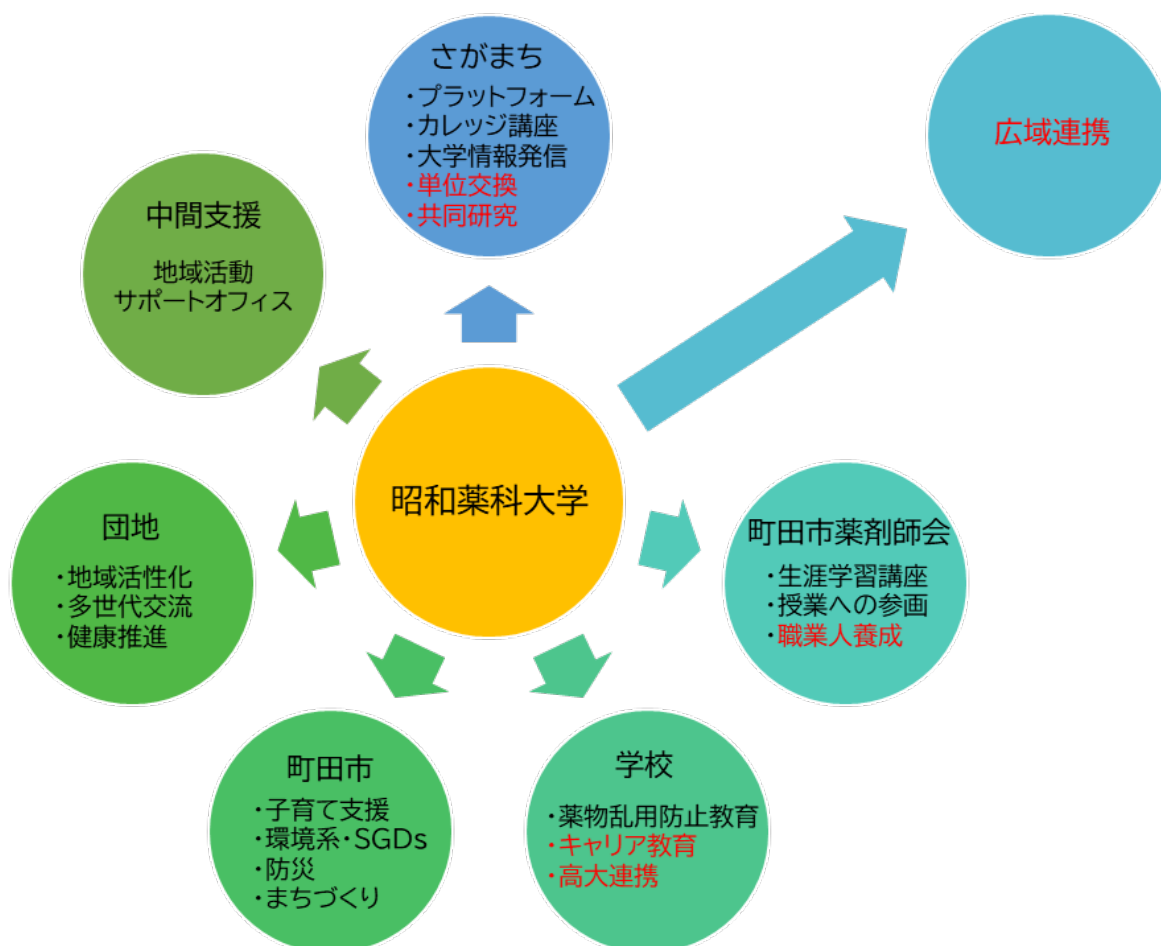


図1. 今までの地域連携（今までの：黒字、これから：赤字）

2. 地域連携センターの主な出来事

2022

4-6月

- ・ユニコムプラザさがみはら大学情報コーナー出展
- ・科学技術週間イベント
- ・さがまちコンソーシアム定時社員総会出席

7-9月

- ・さがまちカレッジ中高生対象講座 ・町田市薬剤師会協議会
- ・JKK東京・本町田住宅・PR
- ・都営住宅及び周辺地域の活性化に係る連携・相互協力に関する協定の締結

10-12月

- ・まちづくり交流会出展
- ・町田市薬剤師会協議会
- ・町田ゼルビア・ゼルビーくん学際参加
- ・生涯学習講座
- ・さがまちカレッジ講座
- ・おくすり・子育て相談カフェ
- ・本町田住宅餅つき大会

1-3月

- ・生涯学習講座
- ・JKK東京・本町田住宅居住学生定例会
- ・地域教育連携プラットフォーム勉強会参加
- ・HP内に地域連携センターページ開設
- ・団地暮らしについて朝日新聞に掲載
- ・生涯学習講座

2023

4-6月

- ・ユニコムプラザさがみはら大学情報コーナー
- ・科学技術週間イベント
- ・町田市薬剤師会協議会
- ・さがまちコンソーシアム定時社員総会
- ・地域活動実践プログラム：説明会

7-9月

- ・地域活動マッチング会
- ・さがまちカレッジ中高生対象講座
- ・さがまち地域教育連携プラットフォーム事業・包括連携協定締結
- ・おくすり・子育ておしゃべり会

10-12月

- ・まちづくりフェスタ
- ・生涯学習講座
- ・さがまちカレッジ講演
- ・県薬剤師会との共催オンライン研修会
- ・おくすり・子育て相談カフェ

1-3月

- ・生涯学習講座
- ・JKK東京・本町田住宅居住学生交流会
- ・地域活動報告会

2024

4-6月

- ・ユニコムプラザさがみはら大学情報コーナー
- ・科学技術週間
- ・さがまち地域教育連携プラットフォーム
- ・さがまちコンソーシアム運営委員会
- ・町田市薬剤師会協議会
- ・地域活動実践プログラム説明会・マッチング会

7-9月

- ・おくすり・子育ておしゃべり会
- ・町田市薬剤師会協議会
- ・さがまち地域合同説明会
- ・さがまちカレッジ中学生高校生対象講座
- ・さがまち地域教育連携PF共同FD研修
- ・生涯学習講座

10-12月

- ・さがまちカレッジ講座
- ・生涯学習講座
- ・昭葉祭オレンジ・ランプ上映会
- ・さがまちコンソーシアム運営委員会
- ・町田市薬剤師会協議会

1-3月

- ・地域活動実践プログラム地域活動報告会
- ・さがまちカレッジ講演
- ・生涯学習講座
- ・町田市薬剤師会協議会
- ・おくすり・子育て相談カフェ
- ・キッズ・スポーツチャレンジ
- ・JKK東京・本町田住宅居住学生定例会

2022年度

4月	科学技術週間/子ども向けのサイエンス講座実施、まちライブラリーにおける「科学の本棚」コーナー
5月	第1回町田市薬剤師会協議会
6月	さがまちコンソーシアム定時社員総会に参加
8月	さがまちカレッジ中学生高校生対象講座「薬の効果を目で見てみよう～いのちを守る抗菌薬のはたらき～」(講師：梶川瑞穂先生) さがまちカレッジ中学生高校生対象講座「実験で体験しよう！～混ぜると光る化学の不思議～」(講師：石田寛明先生) 第2回町田市薬剤師会協議会
9月	JKK東京・本町田住・オープンキャンパスにて受験生にPR 都営住宅及び周辺地域の活性化に係る連携・相互協力に関する協定を締結
10月	ユニコムプラザさがみはら まちづくりフェスタ交流展示会 さがまちカレッジ講座「正しく学ぼう、乳がんのこと～治療と薬剤師の役割について～」(講師：渡部一宏先生) 第3回町田市薬剤師会協議会 町田ゼルビア・ゼルビーくん学園祭に参加
11月	第1回生涯学習講座「いのちを支えるこころの応急処置：メンタルヘルス・ファーストエイドについて学ぼう」(講師：齋藤百枝美先生(東京薬科大学特任教授)) さがまちカレッジ講座「画像診断の仕組みと診断薬のお話」(講師：唐澤悟先生)
12月	おくすり・子育て相談カフェ実施 本町田住宅の餅つき大会に学生が参加
1月	JKK東京・本町田住宅居住学生定例会
2月	都営住宅に学生が入居 さがまち地域教育連携プラットフォーム勉強会 大学ホームページに地域連携センターサイトを開設 朝日新聞に団地で暮らす大学生の活躍が掲載される
3月	第3回生涯学習講座「建築環境計画的視点から薬局環境を考える」(講師：田中稲子先生(横浜国立大学大学院教授))

2023年度

4月	ユニコムプラザさがみはら大学情報コーナーに出展 科学技術週間/子ども向けのサイエンス講座実施、まちライブラリーにおける「科学の本棚」コーナー
5月	さがまち地域教育連携プラットフォームについて教授総会で説明
6月	第1回町田市薬剤師会協議会 さがまちコンソーシアム定時社員総会に参加 地域活動実践プログラム学生向け／参加団体向け地域活動説明会
7月	地域活動実践プログラム地域活動マッチング会 おくすり・子育ておしゃべり会(アウトリーチ活動)
8月	さがまちカレッジ中学生高校生対象講座「薬の効果を目で見てみよう：いのちを守る抗菌薬のはたらき」(講師：梶川瑞穂先生) さがまちカレッジ中学生高校生対象講座「実験で体験しよう：混ぜると光る化学の不思議」(講師：石田寛明先生)
9月	さがまち地域教育連携プラットフォーム事業・包括連携協定締結
10月	ユニコムプラザさがみはら まちづくりフェスタにダンス部が参加 第1回生涯学習講座「薬剤師のキャリアについて考える」(講師：井上俊先生(おれんじ薬局 代表取締役、逸見和範先生(プラーナクリニック薬剤部長))
11月	さがまちカレッジ講演「金属は体にとって必要？～金属含有医薬品の話～」(講師：唐澤悟先生) 神奈川県薬剤師会との共催オンライン研修会
12月	おくすり・子育て相談カフェ 神奈川県薬剤師会との共催オンライン研修会

1月	第2回生涯学習講座「薬剤師のキャリアを考える：『心の健康』に関わる薬剤師の専門性とは？」（講師：関本司先生（長谷川病院 薬剤部長）、土志田敏伸先生（薬樹薬局原町田 管理薬剤師）） 地域活動報告会
3月	第3回生涯学習講座「薬剤師のキャリアを考える：『痛み』について学ぼう！」（講師：亀山俊先生（株式会社望星薬局 常務取締役）、佐々木健先生（メディプレイス365訪問薬局 管理薬剤師））

2024年度

4月	ユニコムプラザさがみはら大学情報コーナーに出展 相模原・町田地域教育連携プラットフォームに参加 第1回町田市薬剤師会協議会 科学技術週間/まちライブラリーにおける「科学の本棚」コーナー JKK東京・本町田住宅居住学生交流会
5月	さがまちコンソーシアム運営委員会に参加
6月	地域活動実践プログラム学生向け地域活動説明会 地域活動実践プログラム参加団体向け地域活動説明会 地域活動実践プログラム・マッチング会
7月	おくすり・子育ておしゃべり会（アウトリーチ活動 於：南地域子育て相談センター） 第2回町田市薬剤師会協議会 相模原・町田地域教育連携プラットフォーム さがまち地域高校生向け合同説明会 第1回生涯学習講座「薬剤師のキャリアについて語ろう：スポーツファーマシストの世界～プロチームを支える薬剤師の役割」（講師：古川美紀先生（薬樹株式会社）、野村大祐先生（アイセイ薬局株式会社）） 夏休み子ども向け科学実験体験会（講師：唐澤教授）
8月	さがまちカレッジ中学生高校生対象講座「混ぜると光る化学の不思議」（講師：石田寛明先生） さがまちカレッジ中学生高校生対象講座「水がつかめる？人工イクラ？「ゲル」の不思議」（講師：石田寛明先生）
9月	さがまち地域教育連携プラットフォーム 共同FD研修 パネリストに宇都口直樹学長が参加
10月	さがまちカレッジ講座「遊びで育つ子どもたち：主体性から始まる発達のプロセス」（講師：吉永真理先生） 第2回生涯学習講座「薬剤師のキャリアについて語ろう：災害時の薬剤師の活躍」（講師：柴田隼人先生（愛知医科大学災害医療研究センター）、日向彰先生（あさひ薬局）） さがまちカレッジ講座「感染症の歴史～新興感染症とは何か～」（講師：金本大成先生） 昭薬祭 オレンジ・ランプ上映会 さがまちコンソーシアム運営委員会に参加
11月	さがまちカレッジ講座「私たちの健康に関わる放射線について知ろう」（講師：岸本成史教授） 第3回町田市薬剤師会協議会 さがまちカレッジ講演「感染症を予防するワクチン～はたらく細胞とワクチンのしくみ～」（講師：金本大成先生） さがまちカレッジ講演「薬学講座～投与後の痛み止めの化学～」（講師：伊藤俊将先生）
1月	地域活動実践プログラム地域活動報告会
2月	さがまちカレッジ講座「親子で体験するスキンケアのワークショップ」（講師：神林弾先生） 第3回生涯学習講座「薬剤師のキャリアについて語ろう：動物たちの命を守る薬剤師の役割～動物病院でのキャリア形成と新たな挑戦」（講師：大塚登志喜先生（動物医療センターもりやま犬と猫の病院）、園部俊輔先生（荏谷動物病院グループ市川総合病院）） おくすり・子育て相談カフェ
3月	相模原・町田地域教育連携プラットフォーム主催「やってみよう！見てみよう！エンジョイ・スポーツ！キッズ・スポーツチャレンジ」 第4回町田市薬剤師会協議会 JKK東京・本町田住宅居住学生との定例会

3. 学生の団地暮らし報告

2019年に東京都住宅供給公社（以下JKK東京）と地域コミュニティ活性化を目的として連携協定を締結しましたが、2022年には、あらたに東京都と都営住宅及び周辺地域の活性化に係る連携・相互協力に関する協定を締結しました（2022年9月21日）。このスキームでは、JKK東京が中間支援的な役割に関わり、これまでの大学生居住プロセスの経験を活かした、学生支援と団地活性化支援を担当することになっています。2024年3月時点で、都営住宅には2名が入居しています。

<1> 学生募集の様子

2022年9月18日・19日、新入生に案内を送付したり、ウェブサイトの成瀬寮等の広報情報の並びに掲載したりする以外に、JKK東京の担当者がオープンキャンパスにて受験生にPRする機会を持ちました。

当日は親子で立ち寄る姿もありました。在学生も、この日に合わせて説明を受け、2022年3月以降に1名が入居予定となりました。その成果もあり、卒業する学生がいても、役割を継承できる学生が入居する流れができました。



<2> 学生参画による夏祭りの様子

本町田住宅では、コロナ禍においても、自治会の工夫と居住者の協力により、夏祭りが継続されてきました。その様子は、JKK東京のサイト等で発信されました。（「本町田住宅で納涼祭を開催！昭和薬科大学の学生が活躍しました。2022年9月15日掲載 本町田住宅」， <https://www.to-kousya.or.jp/community/news35.html>）



▲サイト紹介より抜粋

2023年8月26日に開催された夏祭りでは、学生が自治会の方々と一緒に焼きそばを振る舞い、開店早々から長蛇の列ができるなど、大盛況となりました。学生の中でカメラを趣味とする渡口君は撮影係として活躍していました。すっかりお馴染みとなった住民の方と談笑する様子もあり、まさに多世代交流を体現するような場面が見られました。



▲焼きそば屋台を切り盛りする平田自治会長と学生の岩澤さん



▲自前のカメラで素敵な瞬間を納める学生の渡口さん



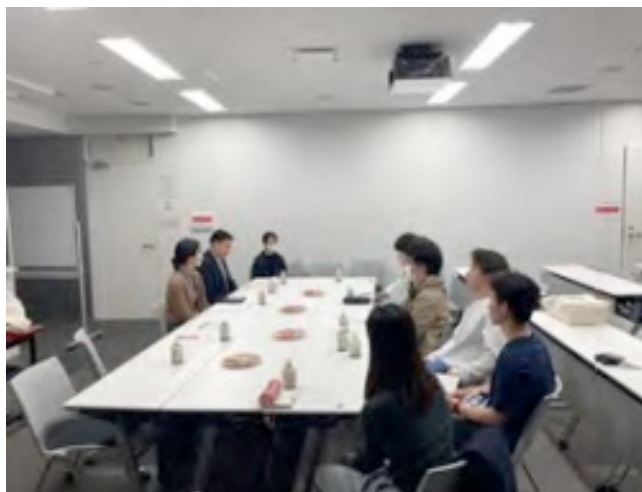
▲2024年の夏祭りの様子



< 3 > 居住学生同士の交流

JKK東京の担当者の皆さんの広報努力や、学内でのPRもあいまって、団地入居学生は順調に増えています。2024年度は、1年生3名、4年生1名が加わり、全部で6名になりました。

また、居住学生の学年を超えた縦関係の構築と自治会活動へのスムーズな参画のために、毎年、居住学生とJKK東京の担当課のみなさまと地域連携センター担当で定例会を開催しました。この会での交流は、自治会活動への参加状況の報告の機会として、居住要件のひとつともなっています。定例会がない時期は活動レポートの提出を行いました。新規の入居者が決まったときは交流会を実施しました。1年生の時から入居している学生がやがてリーダーとなって、後輩たちを引っ張っていつてくれている様子もわかり、貴重な情報交換の場となっています。



▲2024年の交流会の様子



▲2024年の定例会の様子

居住学生以外が地域活動プログラムとしてイベントの企画から実施まで行う参画機会も作られるようになり、学生居住による多世代交流は多くの成果をあげています。

(<https://www.to-kousya.or.jp/community/news139.html>)



昭和薬科大学学生による

お休み処

入場 無料

2024
12.8(日) 10:00 ~ 13:00
場所：ロ-6号棟
コミュニティサロン

聴

“暗記”に関する
ミニ講義&実践

薬科大生が“暗記”の秘訣を教えます！
講義全2回 各回約30分
〇1回目 10:30~
〇2回目 11:30~

飲

温かい飲み物はいかがですか？
全国各地のお茶を飲み比べ！
茶道部に所属する学生が
選りすぐりのお茶をご提供します！

話

今年の一枚
写真とともに2024年を振り返り
思い出を楽しく語り合おう
お気に入りの写真、スマホをお持ちください！
もちろん写真がなくても大歓迎！
学生と楽しくお話ししよう！

ご予約不要！
お菓子もご用意！
ふらっと立ち寄り大歓迎！

イベントに関するお問合せ
東京都住宅供給公社 住宅総合企画部 住宅再生事業推進係
03-3409-2261 (代) 受付時間：平日9:00~17:00

JKK東京

▲地域活動プログラムでイベントを開催した時の様子とちらし

4. 町田市薬剤師会との協議会活動

<1>生涯学習講座

2022年度

第1回 生涯学習講座 薬剤師のリテラシー向上のために「いのちを支えるこころの応急処置：メンタルヘルス・ファーストエイドについて学ぼう」

2022年度 昭和薬科大学・町田市薬剤師会 生涯学習講座

**薬剤師のリテラシー向上のために
いのちを支えるこころの応急処置
(メンタルヘルス・ファーストエイド)
について学ぼう**

開催日 **2022年11月12日(土)**
時間 **18:00-19:30**
講師 **齋藤百枝美先生**
(東京薬科大学薬学部客員教授)
方法 **ハイブリッド開催**

対面の方(第2講義棟201教室)
オンラインの方(ZOOM)
* オンラインにお申し込みされた方にZOOMのアドレスをお送りします
* 質疑応答と当日の諸注意等伝達の時間を含みます

メンタルヘルス・ファーストエイド(Mental Health First Aid)は、メンタルヘルスの問題を抱える人に対して、適切な初期支援を行うための5つのステップからなる行動計画で、オーストラリアの Betty A Kitchener と Anthony F Jorm により開発されたものです。齋藤百枝美先生は同プログラムの日本での普及啓発に関わるおひとりです。住民、薬剤師、医療従事者、学生などに向けた多くの講習経験をお持ちです。町田市でも心の健康の向上に貢献できるよう、みなさんと学びましょう。
厚生労働省「知ることから始めよう みんなのメンタルヘルス」<https://www.mhlw.go.jp/kokoro/education/index.html>

対象：薬剤師、医師、看護師、その他医療介護職等、市民、学生
東京都薬剤師会の認定単位(1)申請予定
受講料：無料

事前申し込み制
QRコード

【主催・企画担当】昭和薬科大学 地域連携センター (一社)町田市薬剤師会

2022年11月12日、第1回生涯学習講座 薬剤師のリテラシー向上のために「いのちを支えるこころの応急処置：メンタルヘルス・ファーストエイドについて学ぼう」を開催しました。

開催日：2022年11月12日

講師：齋藤 百枝美先生(東京薬科大学特任教授)

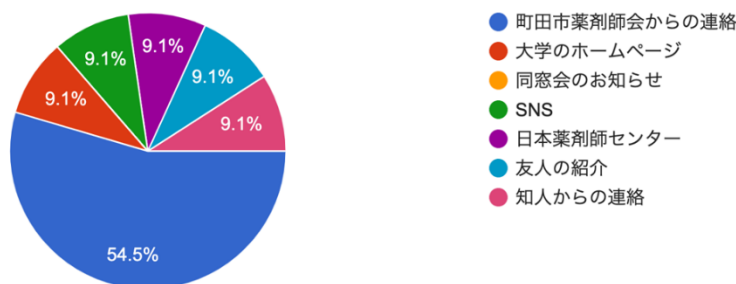
参加者：23名(オンライン参加12名、会場11名)

アンケート回答者：22名



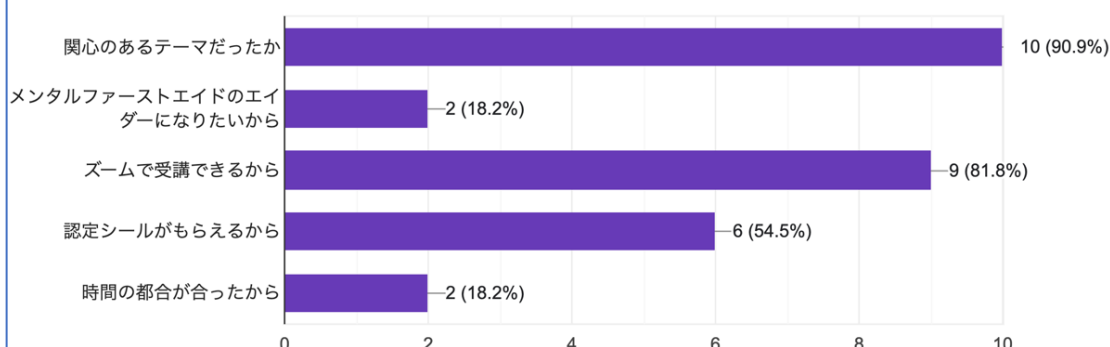
今日の講座をどうして知りましたか

11件の回答



なぜ受講しましたか

11件の回答



第3回生涯学習講座「建築環境計画的視点から薬局環境を考える」

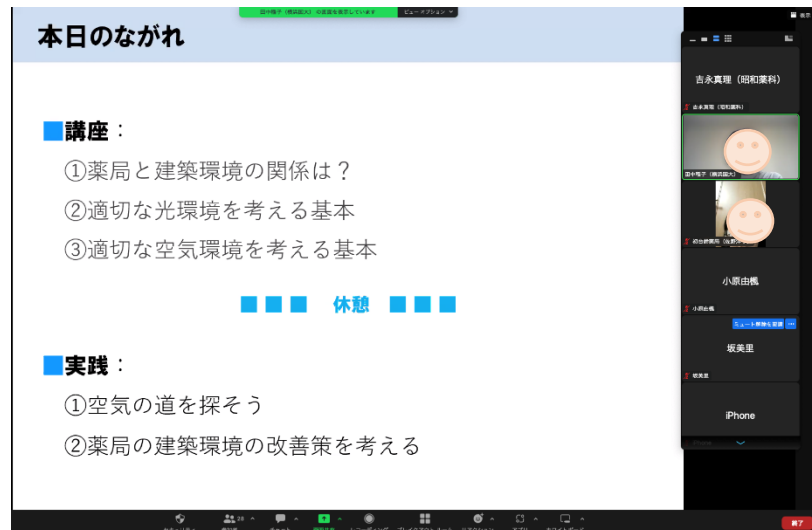
2023年3月18日(土)、昭和薬科大学・町田市薬剤師会第3回生涯学習講座「建築環境計画的視点から薬局環境を考える」を開催しました。

開催日：2023年3月18日(土)

講師：田中 稲子先生(横浜国立大学大学院教授 都市イノベーション研究員)

参加者：34名(オンライン参加27名、会場7名)

アンケート回答者：15名



薬局の労働環境を考える

「建築環境計画的視点から 薬局環境を考える」

***** 2022年度昭和薬科大学・町田市薬剤師会 第3回生涯学習講座 *****

【日時】 2023年3月18日(土) 18:00~19:30

【講師】 田中稲子先生
(横浜国立大学大学院教授 都市イノベーション研究院)

【方法】 ハイブリッド開催
対面: 昭和薬科大学 第2講義棟 201教室
オンライン: ZOOM
※後日、ZOOMのアドレスをお送りします

【対象】 薬剤師、医師、看護師、その他医療介護職等、市民、学生
※東京都薬剤師会の認定単位(1)申請予定

**参加費
無料**



田中稲子先生
専門は建築環境工学で、
建物の温熱環境や省エネ
ギア技術など環境配慮型建築に
関わる技術の研究と、建築環境と住まい方の関
係を調査するなど利用者の心理面に着目した研
究に取り組んでこられました。
近年は保育施設を中心に温熱環境や空気環境
の実態調査、高齢年住宅のヒートショックリス
クや熱中症リスクの実態調査を続け、その対策
に向けた啓発活動も行っているとのことでした。

事前申込制

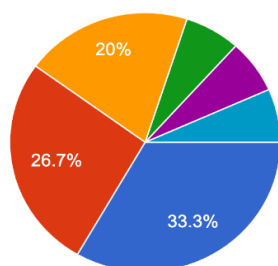
事前申し込み制



お問い合わせ
昭和薬科大学 地域連携センター
☎ 042-721-1511

この講座についてどのように知りましたか。以下より選んでください。

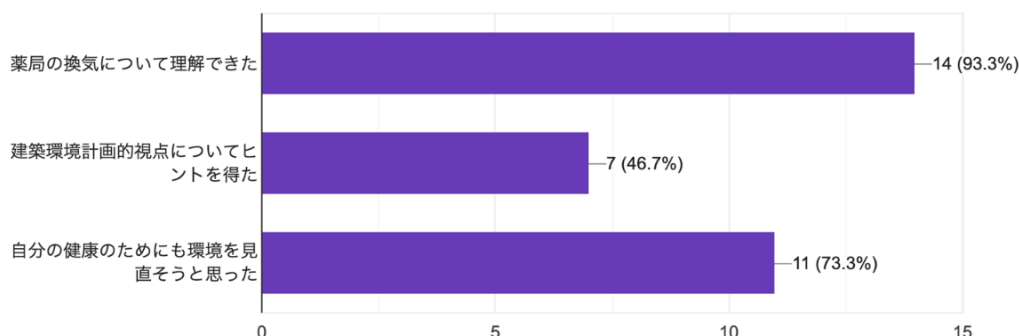
15 件の回答



- 薬剤師会からのお知らせを見て
- 大学ホームページを見て
- 教員から直接誘われて
- 口コミで
- 同僚に教えてもらった
- 大学Twitterを見て

本講座を受講した成果についてあてはまるものをチェックしてください

15 件の回答



感想(抜粋)：

- ・ 普段薬局環境についてあまり考えることがなかったため良い機会になりました。
- ・ 照明など考えたことがあまりなかったので理解が深められた。
- ・ 毎日20kgの空気を吸っていることに驚いた。無意識でおこなっている呼吸や空気について意識することで、薬局の勤務者や来局者への配慮ができると思った。

2023年度

第1回 生涯学習講座 「薬剤師のキャリアについて考える」

2023年10月28日(土)昭和薬科大学・町田市薬剤師会第1回生涯学習講座「薬剤師のキャリアについて考える」を開催しました。

日時：2023年10月28日(土)18:00～19:30

講師：井上 俊先生（おれんじ薬局 代表取締役）

逸見 和範先生（プラーナクリニック薬剤部長）

場所：昭和薬科大学第2講義棟202教室

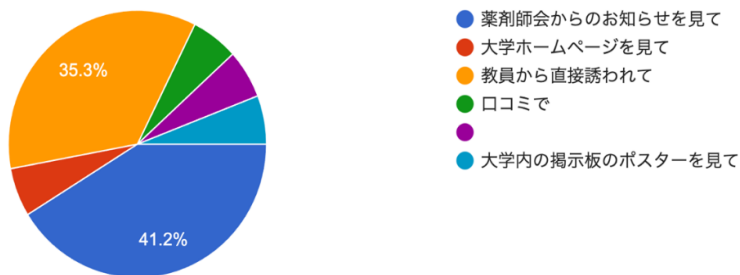
参加者：薬剤師11名、薬剤師会会員6名、学生6名、卒業3名、町田市民 6名、全参加者23名（認定シール 10 名）

感想（抜粋）：

- ・ 高齢者は高カロリーなものをあまり食べてしまっているといけないと思っていましたが、栄養をつけるために必要なことを知れました。
- ・ NSTは病院時代に必須と感じており、現在も褥瘡や糖尿病など有用だと実感しました。
- ・ 薬局薬剤師でもNSTの資格が活かせることを知れたので良かったです。
- ・ 我々も管理栄養士をもっと活用して、地域に貢献する気持ちが強まりました。
- ・ 患者さんへの言葉がけの重要性や、クリニックの薬剤師の役割についてとても勉強になりました。

この講座についてどのように知りましたか。以下より選んでください。

17 件の回答



17 件の回答



2023年度第1回
昭和薬科大学・町田市薬剤師会生涯学習講座

薬剤師のキャリアについて考える

2023年
日時 10月28日(土) 18:00-19:30
場所 昭和薬科大学 第2講義棟202教室
対象 薬剤師、医師、看護師、その他医療介護職員等、市民、学生

18:00～18:45
薬と栄養で地域のチーム医療を支える
栄養サポートチーム(NST)
専門療法士について
講師：井上俊先生(おれんじ薬局 代表取締役)

18:45～19:30
診療所の薬剤師という働き方
～小児アレルギーエデュケーターの活躍どころ～
講師：逸見和範先生(プラーナクリニック 薬剤部長)

【事前予約制】
【参加費無料】
【認定単位】 東京都薬剤師会
認定単位 (1) 申請予定
【問い合わせ】
昭和薬科大学 地域連携センター
☎042-721-1511



第2回 生涯学習講座 「心の健康に関わる薬剤師の専門性とは？」

2024年1月27日(土)昭和薬科大学・町田市薬剤師会第2回生涯学習講座「心の健康に関わる薬剤師の専門性とは？」を開催しました。

日時：2024年1月27日(土)

講師：関本 司先生（長谷川病院 薬剤部長）、土志田 敏伸先生（薬樹薬局原町田 管理薬剤師）

場所：【ハイブリット開催】昭和薬科大学第2講義棟202教室・ZOOM

参加者：薬剤師24 名、薬剤師会会員16名、学生4 名、卒業生1 名、町田市民 1 名 全参加者 27 名(認定シール 16 名)



2023年度第2回
昭和薬科大学・町田市薬剤師会生涯学習講座

「心の健康」に関わる
 薬剤師の専門性とは？

受講料
無料

2024年
1月27日 土 18:00-19:30

【ハイブリット開催】昭和薬科大学202教室・ZOOM
 【対象】薬剤師、医師、看護師、介護、福祉、養護教諭、学生 etc.

講演①
 18:00~18:45
「薬剤師のキャリア、精神科専門薬剤師を目指した理由」
 講師：関本司先生（長谷川病院 薬剤部長）

講演②
 18:45~19:30
「地域での取り組みから見てくるもの」
 講師：土志田敏伸先生（薬樹薬局原町田 管理薬剤師）

*企画・共催 昭和薬科大学、町田市薬剤師会

*東京都薬剤師会認定単位（1）申請

*オンラインに申し込みの方にはZOOMのアドレスをお送りします

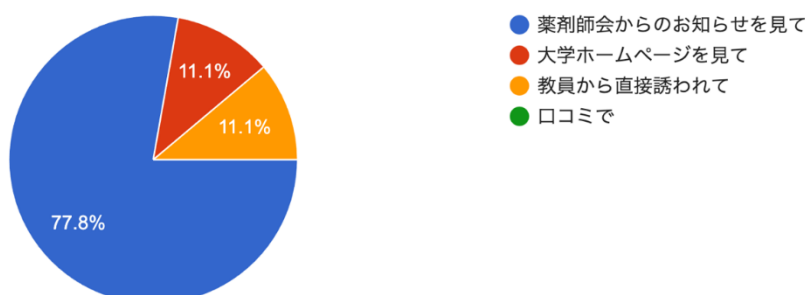
事前申込制

【問い合わせ】
 昭和薬科大学
 地域連携センター
 TEL: 042-721-1511

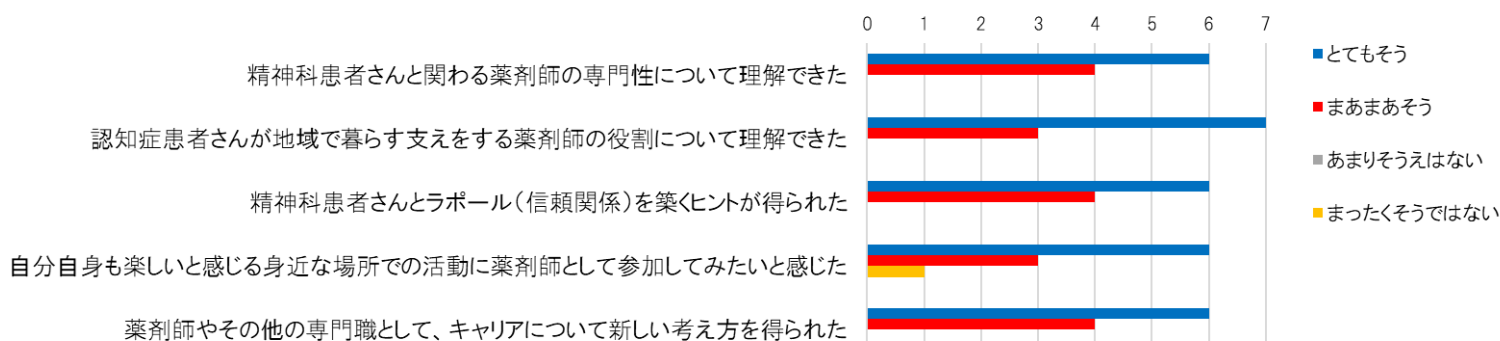
感想（抜粋）：

- ・ 注射は嫌だが、貼付剤ならOKなど、剤形によるイメージで薬の受け入れが変わるというのは興味深かった。
- ・ 様々な分野の知識を持っていることで患者さんとのコミュニケーションに繋がるというお話を聞いて、何でも挑戦し、経験してみる選択をしていきたいと思いました。
- ・ 患者さんの考えを傾聴することを忘れずに、理想の薬剤師に近づけるよう頑張ります。ありがとうございました。

この講座についてどのように知りましたか。以下より選んでください。
 9 件の回答



本日の講演の成果についてあてはまるものをチェックしてください



第3回生涯学習講座「痛みについて学ぼう！」

2024年3月16日(土)、昭和薬科大学・町田市薬剤師会第3回生涯学習講座「痛みについて学ぼう！」を開催しました。

日時：2024年3月16日(土)

講師：亀山 俊先生（株式会社望星薬局 常務取締役）、佐々木 健先生（メディブレイス365訪問薬局 管理薬剤師）

場所：【ハイブリット開催】昭和薬科大学第2講義棟202教室・ZOOM

参加：薬剤師 24 名、薬剤師会会員9名、学生 4 名。卒業生7名、町田市民8名 全参加者 28 名(認定シール 12 名)



昭和薬科大学・町田市薬剤師会共催
2023年度 第3回生涯学習講座

「痛み」について学ぼう！

2024.3.16 (Sat)
【ハイブリット開催】
昭和薬科大学202教室・ZOOM

受講料 無料

対象：
薬剤師・医師
看護師・介護
福祉・学生
養護教諭

講演①

18:00～18:45
「薬剤師の専門・認定制度の利活用
～日本リウマチ財団登録薬剤師 編～」
講師：亀山俊先生(株式会社望星薬局 常務取締役)

講演②

18:45～19:30
「基礎から考える在宅緩和医療における医療用麻薬」
講師：佐々木健先生(メディブレイス365訪問薬局 管理薬剤師)




問い合わせ
昭和薬科大学
地域連携センター
TEL: 042-721-1511

事前申込制



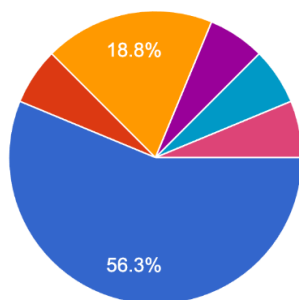
東京都薬剤師会認定単位(1)申請
オンラインの方にZOOMアドレスをお送りします

感想：

- ・ リウマチの治療やチェックについて分かりやすくお話いただいて助かりました。
- ・ 整形の門前なのでたまにRA処方を受け付けております。ガイドラインの解説など分かりやすく教えていただけました。
- ・ 薬剤師が専門性を高める必要がある理由を聞いて、疑問を持つことが大切なことを改めて理解しました。
- ・ 訪問薬剤師の患者様との関わり方が勉強になりました。

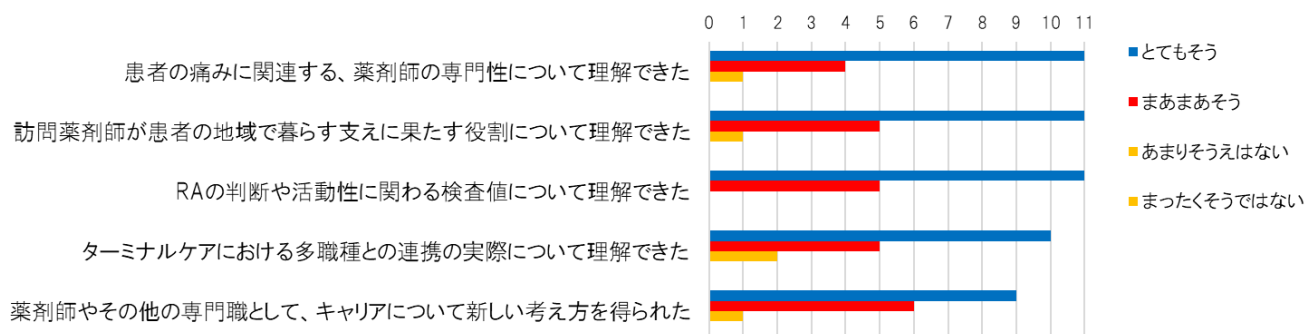
この講座についてどのように知りましたか。以下より選んでください。

16 件の回答



- 薬剤師会からのお知らせを見て
- 大学ホームページを見て
- 教員から直接誘われて
- 口コミで
- 協議会委員（高田）
- 運営側として
- SNS

本日の講演の成果についてあてはまるものをチェックしてください



2024年度

第1回生涯学習講座「薬剤師のキャリアについて語ろう スポーツファーマシストの世界」

2024年7月27日(土)昭和薬科大学・町田市薬剤師会第3回生涯学習講座
「薬剤師のキャリアについて語ろう スポーツファーマシストの世界」
を開催しました。

日時：2024年7月27日(土) 18:00～19:30

講師：古川 美紀先生（薬樹株式会社）、野村 大祐先生（アイセイ薬局株式会社）

場所：【ハイブリット開催】昭和薬科大学第2講義棟202教室・
ZOOM

感想（抜粋）：

- ・ とても分かりやすいご講演で、瞬間間に時間がすぎました。チームと契約を結ぶまでのお話も、大変興味深かったです。学生への温かいお言葉やご対応にも、感謝申し上げます。
- ・ 試行錯誤の上に現在があることを伺えて、励みになりました。
- ・ セカンドスキルの活かし、キャリアデザインについて考える良い機会になりました。
- ・ プロ契約されているスポーツファーマシストのキャリアの始まりを詳細に聞いたこと、とても有益でした。
- ・ スポーツファーマシストとしてのこれまでのキャリア、またそのキャリアを築き上げるまでの過程や考え方まで聴けて大変有意義な時間でした。
- ・ 薬剤師としてのキャリアを積み上で行ったことの全てを仕事として活かすことが難しいということがわかりました。

昭和薬科大学・町田市薬剤師会共催
2024年度 第1回生涯学習講座

『薬剤師のキャリアについて語ろう』
スポーツファーマシストの世界：
プロチームを支える薬剤師の役割

7月27日 土 18:00スタート

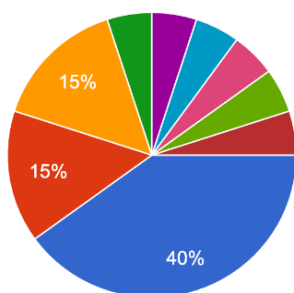
受講料	無 料
対象	薬剤師、医師、看護師、介護福祉職、学生、市民
会場	昭和薬科大学 202教室 ハイブリット開催(ZOOM)
単位	東京都薬剤師会認定単位(1)申請

18:00～18:45
講演① 「スポーツファーマシストと女性アスリートサポート」
古川美紀先生（薬樹株式会社）

18:45～19:30
講演② 「スポーツファーマシストとキャリアデザインについて」
野村大祐先生（アイセイ薬局株式会社）

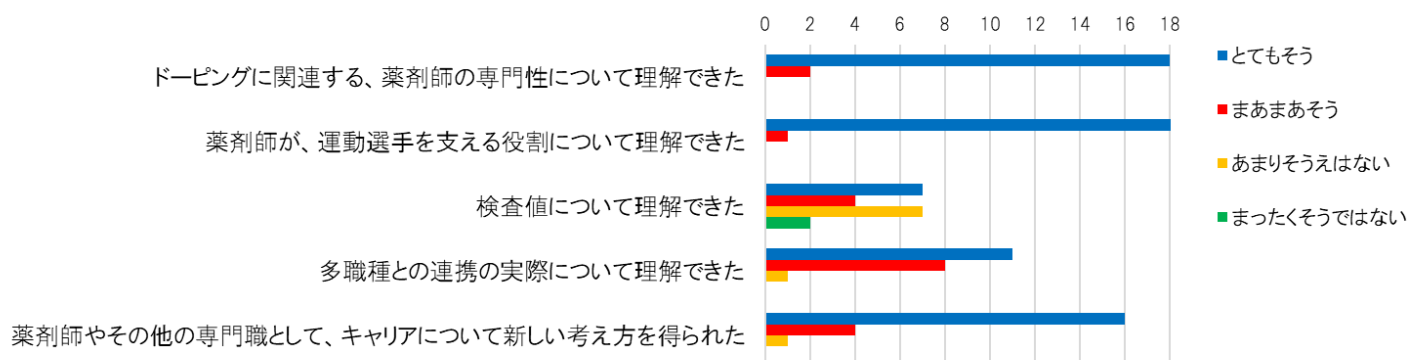
この講座についてどのように知りましたか。以下より選んでください。

20 件の回答



- 薬剤師会からのお知らせを見て
- 大学ホームページを見て
- 教員から直接誘われて
- 口コミで
- SNSで案内を見て
- 他のSPからの紹介
- ドーピング0会の吉田会長のweb講演
- ドーピング0会で知った
- どのホームページか忘れまして。認定薬剤師ドットコム？

本日の講演の成果についてあてはまるものをチェックしてください



第2回生涯学習講座「未来の災害に備える！：薬剤師が知っておくべき災害支援」

2024年10月10日（木）に、昭和薬科大学・町田市薬剤師会共催第2回生涯学習講座を開催しました。

日時：2024年10月10日（木）

講師：柴田 隼人先生（愛知医科大学災害医療研究センター）、日向 彰先生（あさひ薬局、横浜市薬剤師会災害対策委員長、神奈川県薬剤師会災害対策検討委員長）

場所：町田市文化交流センター

対象：薬剤師、医師、看護師、介護福祉職、学生、市民など

2024年度の第2回は、大規模災害時に求められる薬剤師の役割や災害医療と薬剤師をテーマに、災害時の医療支援や地域連携の重要性について学びました。

感想（抜粋）：

- ・ 今後は被災者にあることも想定して多くの準備が必要だと感じました。
- ・ 災害時における薬剤師が果たす役割が良く分かりました。
- ・ 災害時の薬剤師の役割について何をすればいいか思い浮かばなかったが、薬剤師ならではの役割を提示していただいて、具体的に考えることができました。
- ・ 災害時にすみやかに活動できるよう組織化され、適切な活動が必要であることがわかりました。
- ・ 色々な災害支援を経験されており、感心しました。
- ・ 阪神淡路での震災から少しずつ災害時の医療が進んでいく為皆が努力している事を痛感出来ました。

受講料 無料

未来の災害に備える！ ：薬剤師が知っておくべき災害支援

日時
10月10日(木)
19:00～20:30

会場
町田市文化交流センター
5階 サルビア
アクセス：https://www.city.machida.tokyo.jp/bunka/bunka_gojyosai/od/pla/cz/access.html

ハイブリッド開催(ZOOM)

単位
東京都薬剤師会
認定単位(1)

対象
薬剤師、医師、看護師、
介護福祉職、学生、市民

講演①
大規模災害時の被災地支援時に求められる薬剤師の職能

講師：柴田 隼人 先生
愛知医科大学災害医療研究センター

講演②
災害医療と薬剤師
～過去から学び、未来に備える～

講師：日向 彰 先生
あさひ薬局
横浜市薬剤師会災害対策委員長
神奈川県薬剤師会災害対策検討委員長



おぐすり



災害医療支援チーム
Disaster Medical Assistance Team



事前申込制

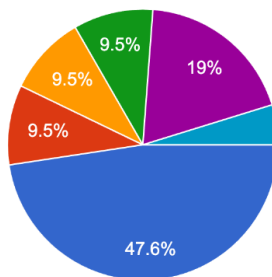
昭和薬科大学・町田市薬剤師会共催2024年度第2回生涯学習講座

お問い合わせ

昭和薬科大学地域連携センター
TEL 042-721-1511

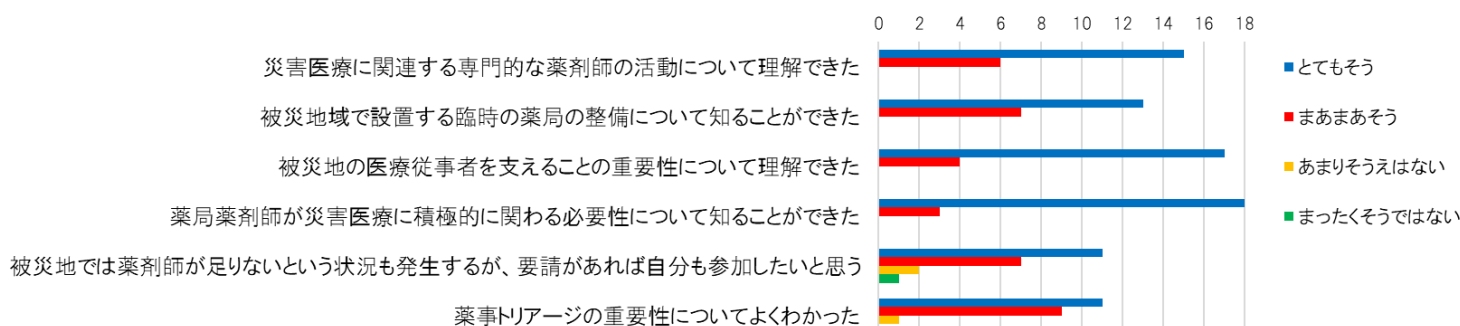
イラスト：藤田 友

この講座についてどのように知りましたか。以下より選んでください。
21 件の回答



- 薬剤師会からのお知らせを見て
- 大学ホームページを見て
- 教員から直接誘われて
- 口コミで
- SNSで案内を見て
- 災害薬剤師でネット検索して

本日の講演の成果についてあてはまるものをチェックしてください



第3回生涯学習講座「動物たちの命を守る薬剤師の役割：動物病院でのキャリア形成と新たな挑戦」

2025年2月22日（土）に、昭和薬科大学・町田市薬剤師会第3回生涯学習講座「動物たちの命を守る薬剤師の役割：動物病院でのキャリア形成と新たな挑戦」を開催しました。

日時：2025年2月22日（土）

講師：大塚登志喜先生（動物医療センターもりやま犬と猫の病院 薬剤師）、園部俊輔先生（荏谷動物病院グループ市川総合病院 薬剤師）

場所：昭和薬科大学 202教室 ハイブリッド開催

対象：薬剤師、医師、看護師、介護福祉職、学生、市民など

当日は、オンラインと対面を合わせて過去最多の117人が参加しました。動物病院で働く薬剤師は「動物病院で活躍するには自分で切り拓いていくことが大事」「動物種や体重に合わせたオーダーメイド調剤が必要。分割や粉碎の手技を身に付けてくれるといい」とアドバイスを送りました。

動物病院で働く薬剤師は全国で20人弱とされています。こうした中、第一線で活躍する2人の専門家が薬剤師業務を紹介しました。



昭和薬科大学・町田市薬剤師会共催 2024年度第3回生涯学習講座

動物たちの命を守る薬剤師の役割： 動物病院でのキャリア形成と新たな挑戦

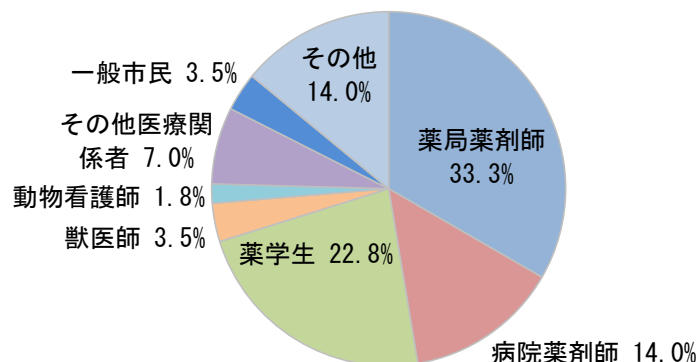
受講料無料

講演①
動物病院で必要とされている薬剤師の力とは？
日時：2025年2月22日（土）
時間：18:00～19:30
講師：大塚登志喜先生
（動物医療センター
もりやま犬と猫の病院 薬剤師）
会場：昭和薬科大学202教室
ハイブリッド開催

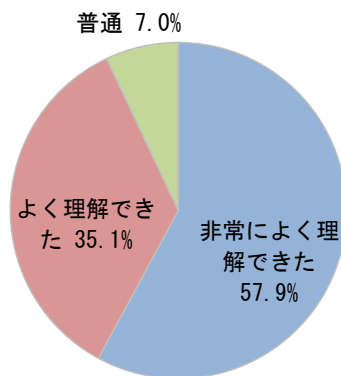
講演②
動物の薬が処方され飼い主さんの手元に届くまで
日時：2025年2月22日（土）
時間：18:00～19:30
講師：園部俊輔先生
（荏谷動物病院グループ
市川総合病院 薬剤師）
単位：東京都薬剤師会認定単位（1）
対象：薬剤師、医師、看護師、
介護福祉職、学生、市民
事前申込制

お問い合わせ 昭和薬科大学地域連携センター 042-721-1511

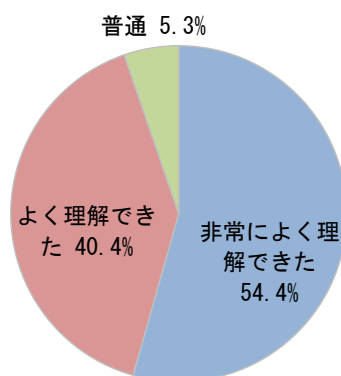
あなたの職種をお聞かせください。
(n=57)



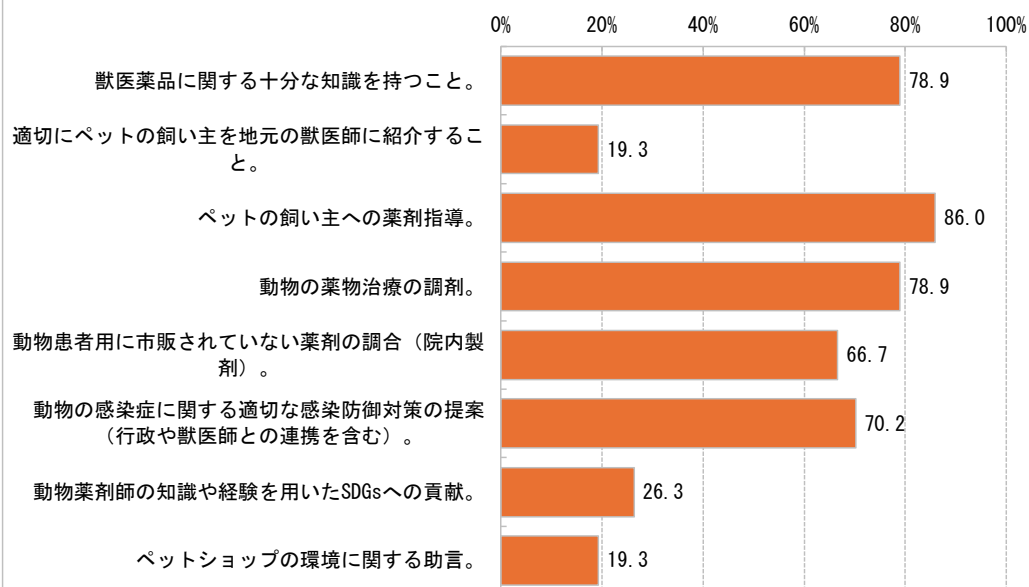
講演① 「動物病院で必要とされている薬剤師の力とは？」の内容は理解できましたか？
(n=57)



講演② 「動物の薬が処方され飼い主さんの手元に届くまで」の内容は理解できましたか？
(n=57)



薬剤師が果たすべき重要な役割として、適切だと思うものをすべて選んでください。（複数選択可）
(n=57)



当日は多くの質問があり、講師から後日回答いただけたので、ウェブサイトにも公開しました。講座については薬事日報にも掲載されました。（掲載ページ：<https://www.yakuji.co.jp/entry116513.html>）

質疑応答（抜粋）：

- Q 猫にシリンジで水剤を与えているのですが嫌がってこぼしてしまいます。うまく飲ませる方法があれば教えてください。
- A1 猫や犬は嫌がると後ろに逃げるので、薬を上げる時には自分はある程度座って股に猫を入れて逃げ道をふさいであげたりしています。あとは顔も後ろに引くのでシリンジを持っていない手で顔を後ろから抑えたりもします。
- A2 猫が後ずさりしないように猫の背中に壁をつくるように保定する。投薬は犬歯の後ろのスペースから入れてあげるか、口を開けさせてくれる子であれば口を開けてなるべく奥に入れてあげる。少し上を向かせてあげると自然と喉の方に流れていき反射で飲み込んでくれやすいです。
猫は鼻のあたりを触ると飲み込みの仕草をしやすいので、投薬後に鼻周辺を撫でてあげるのも効果的かもしれないです。可能であれば保定する人と投薬する人の2人体制だとやりやすいかと思います。
- Q 動物は喋れませんが、Person-Centred Care (患者中心性)のような考え方はあるのでしょうか？ 動物にも薬剤アレルギーがあるのかも気になります。
- A1 患者中心の考え方はあると思います。動物の苦痛はできるだけないように処置や薬を選択します。アレルギーもあります。内服薬は多くありませんが、ワクチンではアレルギーに遭遇することは多いと思います。
- A2 可能な限り飲みやすい剤型や製品を使うようにしています。同一成分でもメーカーによってフレーバーが異なったりする場合などあり、希望があれば指定の製品で調剤を行うこともあります。動物も食物アレルギーもあれば薬剤アレルギーもあります。抗生剤で消化器症状などはたまに見られます。また、フィラリア症予防薬にはビーフや大豆を使用している製品もあり、食物アレルギーがある子には使用しないようにしています。
- Q 動物病院に就職したいのですが、このまま薬剤師職の応募を待つか、動物看護師の資格をとってどうにかして病院に就職するか、どちらの方がいいでしょうか。大阪に住んでいるんですが、求人がほとんど出ていません。
- A1 大阪にも動物病院で働いている薬剤師の方は知っています。パートであれば見つかるかもしれないです。薬剤師で働くために愛玩動物看護師になるのは個人的にはかなり時間がかかり遠回りかと思います。
- A2 動物看護師の資格を取ってというのはあまりおすすめはしないです。時間もかかりますし、動物看護師の仕事も大変な仕事です。せっかくの薬剤師の資格を最大限に活かせるよう薬剤師求人を待っていただいた方が良くと思います。
- Q 小児の総合病院の門前薬局に勤務しているのですが、割り切れない錠数の極少量の粉碎処方がたくさんきます。なぜ動物病院は分割が多いのですか？
- A1 分割ができないほど小さい場合は粉にします。ただ、飼い主によっては粉では犬・猫に投薬できないという人もいますので、飼い主に合わせて剤形を変えています。
- A2 飲める剤型で調剤するというのが大きな理由です。用量にある程度の幅のある薬剤が多いのでその範囲内や近似値であればOKとする場合が多いです。非常に体重の小さい子で錠剤が難しい場合はこちらから獣医師に粉碎で対応させてもらおうと問い合わせたり、厳密に投与量調整したい場合は獣医師から粉碎指示があります。
- Q 配合変化のお話もありましたが、例えば数種類の粉碎指示で混ぜたらいけないものや、動物薬で併用禁忌にあたるようなものはあるのでしょうか。
- A1 粉碎で混ぜたらいけないものは大塚が勉強不足で分かりません。ただ、シロップで混ぜる際には、サミリンという活性酵素のサプリメントとビオフェルミンを混ぜると発砲してしまうのでNGとかはあります。併用禁忌は人と同じと考えて貰って大丈夫です。動物特有のものは大塚が勉強不足で分かりません。
- A2 当院は必ず一薬剤ごとに調剤を行っており配合変化などに会ったことがなく、動物薬同士の配合変化や配合不可などがあるかはわかりません。猫にカロナールが禁忌など動物種特有の禁忌はありますが、動物特有の併用禁忌は無いかと思います。

<2> 連携による地域の子育てサポート

1) おくすり・子育て相談カフェ

大学・町田市子育て推進課子育て相談センター・町田市薬剤師会との連携事業として、「おくすり・子育て相談カフェ」を開催しました。本事業はコロナ下でのオンライン開催サポートをきっかけに、町田市地域活動サポートオフィスにお手伝いいただけるようになりました。

2022年度

2022年12月5日月曜日、すずらんにて、「おくすり・子育て相談カフェ」を開催しました。本校卒業生（順天堂大学病院勤務）が薬剤師として参加しました。小児薬物療法認定薬剤師の有資格者も参加し、子育てと薬について相談できる場となりました。当日の様子は町田市地域活動サポートオフィスのウェブサイトにも掲載されました。

(<https://machida-support.or.jp/uncategorized/showauniv2022/>)

おくすり・子育て相談カフェ

主催：昭和薬科大学&町田市地域子育て相談センター
協力：（一社）町田市薬剤師会・（一社）町田市地域活動サポートオフィス

昭和薬科大学の地域連携センター&町田市薬剤師会と共催で『おくすりと子育て』をテーマにした子育てひろばを開催します！

2年ぶりの対面での開催です。

くすり、病院のかかり方、医療・健康、子育て等
日頃、子どもを育てる中で生じる疑問を
相談や情報交換ですっきりしませんか。

お子さんを遊ばせながら、薬剤師、保育士、公認心理師・臨床心理士
にお話できます。

日時：2022年12月5日（月曜日）10:30～12:00
対象：0～2歳のお子さんの保護者 20組程度（町田市民優先）
場所：昭和薬科大学（町田市東玉川学園3-3165）
最寄駅：小田急線玉川学園前（コミュニティバス）
JR 横浜線成瀬駅よりバス（親性寺または昭和薬科大学前）
アクセス・・・><https://www.shoyaku.ac.jp/about/access/>

申込：2022年11月25日（金）～ 休館日を除く10時～18時
町田市地域子育て相談センター 電話：042-710-2747
電話又は受付にてお申込みください

※自家用車で来場ご希望の方はご相談ください。
※過去の様子は、右記のQRコードからご覧いただけます。



2023年度

2023年12月1日（金）、すずらんにて開催しました。当日は、2組の親子が参加しました。はじめは、子育て相談センターの方が準備したおもちゃコーナーで、親子で一緒に過ごしました。赤ちゃんたちが慣れてきたあとは、お母さんは赤ちゃんを離れて、ゆっくり薬剤師さんへの相談タイム。赤ちゃんたちは、子育て相談センター相談員の方、昭和薬科大学の学生さんとおもちゃで遊んでいました。月齢がとても近かったこともあり赤ちゃん同士も打ち解けていた様子でした。



当日にあった相談と回答：

- Q 腕にブツブツがあります。保湿ケアだけで治るのを待つか、軟膏を塗るか、お医者様によって意見が違います。どうすればいいですか？
- A 受診した時の状態が違って、お医者様によって違う見解になった可能性もあります。痒がりますか？見たところ掻き傷も無さそうなので、保湿でも大丈夫そう。痒がる場合、とびひの原因になるので軟膏を塗った方が良いです。朝晩保湿を繰り返すことは大切です。
- Q 以前下痢と鼻水で病院に行った時に麻黄湯と整腸剤を処方されました。麻黄湯も整腸剤も全然飲めませんでした。特にシロップが飲めません。薬をうまく飲ませる方法がありますか。
- A 粉の方が、服薬補助ゼリーを使うなど飲みやすいかもしれないので、受診時にお願いすると良いでしょう。また、最低限飲まなければいけない薬はどれかを、お医者様もしくは薬局で聞いて把握しておくのがおすすめです。
- Q ご飯をたくさん欲しがりますが、どれくらいあげたらいいか悩んでいます。一日3回食事をしており、おやつは機会を逃してしまっていてあげないことが多いです。
- A 明らかに多い量でなければあげても良いと思います。しかし、まだ食べられる1回量が少ないので、3食+間食を基本にしてください。
- Q 熱が出た時に処方された薬を数回飲んだら熱が下がったのでお薬（シロップ）が余ってしまっています。余った時は、最後まで飲ませた方がいいのですか？
- A 基本的に解熱したら飲まなくて良いです。これも処方の時に、お医者様もしくは薬局で確認していただくと良いです。シロップはあまり使用期限が長くないので、余ったものは廃棄してください。またお子さんが小さいうちは、体重の変化と共に薬の量も変わってしまうため、余った薬は取っておかず処分してください。

最後は、子育て相談センターによる「お楽しみの時間」。手遊びや大型絵本の他に、ウクレレの演奏にあわせてみんなで「あわてんぼうのサンタクロース」を合唱しました。赤ちゃんたちが終始笑顔でリラックスしていたので、参加者全員が幸せな時間となりました。

当日の様子はこちらからも見ることができます。

(<https://machida-support.or.jp/report/performance/showa1201/>)

2024年度

2025年2月27日木曜日、すずらんにて開催しました。当日は、お母さん3名と赤ちゃん2名が参加しました。今年度は初めて、卒業生がお子さんと一緒に参加してくれました。保険薬局薬剤師として働いているそうで、現在は育児休暇中とのことでした。次回は相談役の薬剤師さんとして参加したいと言ってくださり、本事業の当初からの目標のひとつが達成されたように感じました。

当日にあった相談と回答：

Q 子どもが粉薬を嫌がり飲まなくなってしまう。市販の服薬補助のゼリーを使ったり、子どもの好きなジュースに混ぜたりと工夫しているが自我が強く苦戦しています。良い方法がありますか？

A 1歳を過ぎたところからの自我の芽生えは成長の証で、薬を飲まなくなるものだと思います。そのうえで、工夫できるポイントをいくつか紹介します。①なるべく少量にする、②ジャムや離乳食果物ペースト等とろみがあるものの中にいれる、③水でねってまるめたものを歯ぐきと頬の間や上あごにいれる。是非試してみてください。

また「薬はそのまま飲むもの。おいしいものではないが、必要なもの」ということを子どもに伝えておくと、成長した後に飲ませやすくなりますよ。

Q 保育園に通っていて鼻水がすぐに出てしまいます。鼻水を止める薬はよいのでしょうか。

A 鼻水を止める薬の処方、医師の方針や子どもを取り巻く環境によるとと思います。例えば、保育園が鼻水が出ている状況で登園OKかNGかどうかなどで必要性も変わります。鼻水を止めると、耳に回ってしまい中耳炎になることもあります。医師は子どもの骨格や体重なども考えたうえで、薬を処方しています。

Q 症状がおさまったが、処方された薬が残っている場合どうしたらよいでしょうか。

A 医師や薬剤師にあらかじめ途中で薬をやめていいか聞いておくとうえと良いと思います。特に大量に薬が処方された際には聞いてみてください。

この他にも、お母さん方からの質問に対して専門家視点からのアドバイスがあり、時間いっぱいまでお話されていました。日ごろじっくり話す機会のない薬剤師の方と話せたことで、薬剤師の仕事を身近に感じる事ができたようでした。最後は、子育て相談センターによる「お楽しみの時間」。わらべうたを歌いながらの手遊びや、大型絵本の読み聞かせなど、親子と学生みなさんと一緒になって楽しみました。0歳の赤ちゃん同士もお互いの存在に気付いてコミュニケーションをとって微笑ましかったです。

相談センターの職員もお母さんとお話する中で、日ごろの子どもの成長やお母さん自身の悩みについてなどを伺うことができ、共に考える時間となりました。



2)おくすり・子育ておしゃべり会（アウトリーチ活動）

事業計画で地域連携活動が開始されて以降、大学内でのおくすり相談カフェを開催してきましたが、もっと子育て当事者の身近な場で行った方が、相談しやすいのではないかと考え、アウトリーチ活動を開始しました。

2023年7月21日金曜日、南地域子育て相談センターにて「おくすり・子育ておしゃべり会」を開催しました。小児アレルギーエドゥケーターの資格を持つ、地域連携センターの委員でもある神林弾先生が相談役を務めました。

当日にあった相談内容：

- ・ 風邪薬はいつまで飲めばいいのか
- ・ 頭痛持ちだが授乳しているので服薬のタイミングがわからない
- ・ 保育園に入るが、アレルギーがあるかを確認するために多様な食べ物を食べさせた方がいいか
- ・ 薬を飲まないで困る



▶2023年度の様子

2024年7月11日木曜日、南地域子育て相談センターにて「お薬相談おしゃべり会」を開催しました。



▲2024年度の様子

2024年には、町田市子ども生活部子育て推進課の協力により、5つの相談センターにてアンケートを実施し、薬剤師への相談や薬科大学へのニーズを調査しました。相談したい事柄は「スキンケア」「薬を飲ます方法」「お医者さんへのかかり方」「日頃聞けない薬の疑問」「授乳と薬のこと」が上位5項目となりました。また、大学や学生へのイメージも尋ねました。関心はあるものの、アクセスに不安があり、車での来学を望んでいることが示されました。

表1. 薬剤師に相談してみたいこと

	人数	%
子どものスキンケア	72	53.3
子どもにうまく薬を飲ます方法	64	47.4
お医者さんへのかかり方	39	28.9
日頃聞けない薬の疑問	38	28.1
授乳と薬のこと	37	27.4
薬の使い方	26	19.3
薬局の役割や選び方	14	10.4
子育ての負担による自分の健康問題	12	8.9
合計	135	100.0

表2. 昭和薬科大学・学生へのイメージ

	人数	%
駅から遠くて子どもと行くのは大変そう	68	50.4
自家用車で行けるなら行ってみたい	68	50.4
大学の施設を見たり使ったりしてみたい	40	29.6
昭和薬科大学を知らない	39	28.9
行ったことないので、行ってみたい	38	28.1
大学生と交流してみたい	10	7.4
合計	135	100.0

<3> 認知症の啓発

2024 年 10 月 27 日、昭和薬科大学・町田市薬剤師会・第3高齢者支援センターの共催による「オレンジ・ランブ鑑賞会」を学園祭（昭薬祭）の2日目に開催しました。当日は115名の参加者がありました。高齢者支援センターやひだまりカフェの声かけにより、参加した高齢者や市民のみなさんが集まりました。学内の呼びかけに対して、学生も鑑賞会のみでしたが、数名参加していました。映画鑑賞会後は、教室に移動し、感想をシェアするワークショップをおこないました。

受付時に配布された4種類の飴ごとにグループに分かれ、12人の学生も参加して、意見交換を行いました。印象に残った人物について話し合い、下記のような意見がありました。

印象に残った人物としては、あたたかく力強く主人公を支える奥さんが多く上がりました。また、主人公も大きなプレッシャーの中、当事者の会に参加してヒントをもらってからは、自分でノートの作成など数々の工夫をしてる点が素晴らしいという意見と、頼るのに勇気がいるので、手を差し伸べる人の伝え方が大事、という意見が出ました。他には、自身の経験を踏まえて、会社でずっと働けるよう、みんなの心をまとめた社長さんや当事者の会で司会をしていた女性などもあがりました。映画のように家族や職場がサポーターではなかった時はどうしたらいいのか、そういう時にこそ地域の力が必要になるのではないか、という意見もありました。「心配はしているけど、信用している」という奥さんの言葉が印象的だったという感想も聞かれました。

学生の若者の視点からの意見では、子どもの視点で見た人が多かったようでした。自分の親がそうになったら、に加えて、結婚相手が？、あるいは息子が？などさまざまな立場から考えたことが意見として出ました。また、主人公は男性だったから、社会的な関わりがあったが、女性だったらどうだったのだろう、という貴重な意見が出ました。さらに、地域によっても状況が違うのではないかという気づきがあったグループもありました。都心部であっても隣近所の交流を持てるようにすることが大切という意見でした。

その後、薬剤師の井上俊先生より町田市の認知症対策の状況について説明いただき、今後も、大学、薬剤師会、そして市民のみなさんと、若者から高齢者まで、それぞれの視点と役割を持って、認知症にやさしいまちづくりに貢献していきたいという思いを共有して終了しました。



▲写真は上から会場の様子、終了後のワークショップ、J:COMジモトトピックスの取材を受ける様子

5. さがまちコンソーシアムにおける大学間連携と大学からの発信

<1> ユニコムプラザさがみはら

1) 大学情報発信

ユニコムプラザさがみはら大学情報コーナーに大学の情報を展示しました。大学の特徴を活かした、活動事例、研究成果、開発商品、ノベルティグッズなど最新の情報を発信するコーナーで、市民が大学を身近に感じ、理解を深め、市民と大学が交流するきっかけを提供する展示スペースです。



発信情報の内容は主な施設（薬用植物園等）のイベントスケジュール、大学企画の講座等の周知、学生の活動の紹介（動画）に加え、本学の若手研究者を中心に、学生の視点から見た研究活動の紹介を行う「SPUかわら版」の発行を開始しました。丁寧に構成されており、読み応えがありました。

SPUかわら版 vol.1

～研究室に訪問しました～ No.1

化学薬学系 医薬分子化学研究室

こんにちは。私は昭和薬科大学の学生記者、ペンネームGentianaです。今回から新たに「SPUかわら版」を発行することになりました。学生ならではの目線で昭和薬科大学をいろいろと紹介できればと思っています。初回は研究室紹介ですが、大学祭である「昭薬祭」や部活動の紹介も今後していく予定です。読んでいただいた感想や特集してほしいトピックスなどありましたら、こちらのQRコードからアクセスできるアンケートフォームに記入していただけるとモチベーションが上がります。よろしくお願いします。それではSPUかわら版をお楽しみください。



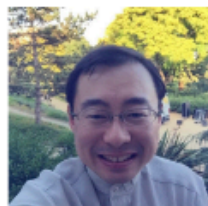
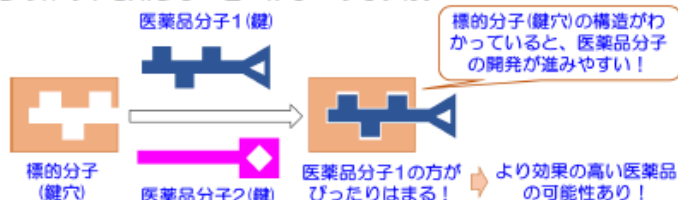
Gentiana (以下：G)： こんにちは。今日は研究室訪問の1回目として、医薬分子化学研究室内の伊藤俊将先生にいろいろインタビューしていきたいと思っております。よろしくお願いします。

伊藤先生 (以下：伊)： 医薬分子化学研究室内の伊藤です。よろしくお願いします。ところでGentianaさんは医薬品ってどのように効いているのかわっていますか？

G： これまでの講義で習いました！医薬品は私たちの体のなかで、病気の原因となる部分（臓器や受容体、酵素等）にくっついたり、集まったりすることで作用を示します。

伊： ちゃんと勉強しているようで安心しました。医薬品の多くは、低分子と呼ばれる小さな分子でできています。反対に高分子と呼ばれる大きな分子には、タンパク質があります。ほとんどの医薬品はこのタンパク質と結びつく性質をもっています。医薬品は症状と関連した特定のタンパク質に結びつくことで、その振る舞いを変えることができるのです。この作用により、症状の改善という効果があらわれます。近年の論理的創薬では**タンパク質の挙動を調節するために分子をデザイン**することが必要になっています。

G： なるほど。医薬品を開発するためには、医薬品だけでなく、私たちの体の中も知らないといけいのですね。



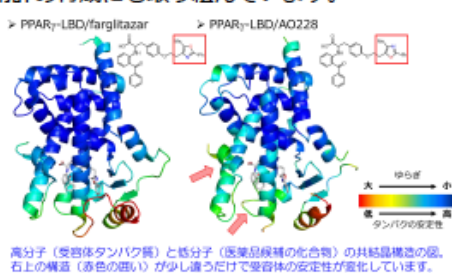
伊藤 俊将 教授
(昭和薬科大学 医薬分子化学研究室)

伊： その通りです。薬学部では化学だけでなく、生物学や物理学、他には数学も学ぶのは、広く深い知識が薬剤師や創薬研究者に求められているからです。そういった基礎的な学問を学んだ上で、薬理学や感染症学、薬物治療学、公衆衛生学、臨床薬学といった薬学部特有の専門科目に発展して学んでいきます。さらに現在はチーム医療として、医師や看護師、薬剤師、理学療法士、作業療法士、栄養士など患者さんを中心に様々な職種の人々がチームを組んで治療に取り組んでいますので、そのためにも幅広い内容を学びます。

G： そうなんですね。私も勉強をがんばります。それでは伊藤先生の研究室ではどのような研究をしているのですか？

伊： 私たちの研究室では論理的創薬に役立つ発見をするために、タンパク質と結合する化合物の設計と合成を行っています。様々な作用性をもつ**低分子**やなど様々な視点で創製し、標的とするタンパク質への影響を調べます。このような研究から、タンパク質の機能を停止させる低分子や結合したら離れない**共有結合型の低分子**、さらに強力にタンパク質と結合する**ペプチド**などを見出してきました。それぞれの教員がもつ専門性と充実した大学の研究施設を活かし、骨粗しょう症、糖尿病、乳がん、炎症性疾患などの医薬品開発に利用できる研究を行っています。またこのような研究の卒論研究を通じて、研究力のある薬剤師の育成にも取り組んでいます。

G： 4年生から研究室配属で2年半、卒論研究に取り組むのですね。卒論研究のためにも、もっと勉強をがんばろうと思います。今回は色々とお話をありがとうございました。



～とある学生の1日～

- 9:30 研究室に到着！
- 9:45 前日の実験で使った細胞の様子を確認。ちゃんと順調に育っていました。一安心です。
- 10:00 今日行う実験の打ち合わせを先生とする
- 10:15 実験スタート。間違えないようにし薬を計量して調製します。毎回のことですが、緊張します。。。
- 12:30 ちょっと遅めの昼食♪
- 13:30 午後の実験スタート！午後は有機化学の実験をします。前日に反応を仕込んでおいたので、その経過を確認します。
- 16:00 反応の後処理を終えて、HPLC（高速液体クロマトグラフィー）を使って、合成した化合物を精製します。
- 17:00 無事に精製が終了したので、真空乾燥装置にセットして、翌朝まで化合物を真空乾燥します。
- 17:30 今日の分の実験ノートに研究内容を記録（これが非常に大切！）して先生に報告と明日の実験の相談をして今日の研究は終わり♪帰宅します！



クリーンベンチで細胞を使った実験をします。(↑)



試験管で化合物を合成しているところです。(↑)



タンパク質精製で使うHPLCです。(↑)

研究室の学生(35人)に聞いてみました！

Q1. 薬学部を目指した理由・きっかけはなんですか？（複数回答可）



Q2. 今の研究室を選んだ理由はなんですか？（複数回答可）



Q3. 将来はどんな仕事をしたいですか？（複数回答可）



薬学部＝薬剤師のイメージが強いかもしれませんが、将来の道は薬剤師だけでなく様々な選択があります。薬剤師としても色々な活躍の場があります。ぜひ薬学部への進学を考えてみてください。先輩方は高校で理科が好き人が多いようです。

SPUかわら版 vol.2

～研究室に訪問しました～ No.2

生物薬学系 微生物学研究室

こんにちは。私は昭和薬科大学の学生記者、ペンネームGentianaです。「SPUかわら版」第2号は、研究室訪問の第2弾として「微生物学研究室」にお邪魔しました。微生物学研究室でこなわれている研究内容や、学生のみさんの日常のようすをご紹介します。読んでいただいた感想や特集してほしいトピックスなどありましたら、こちらのQRコードからアクセスできるアンケートフォームに記入していただけますとモチベーションがあがります。よろしくをお願いします。それではSPUかわら版をお楽しみください。



クスリが効かない未来を変える

-微生物学研究室の挑戦-

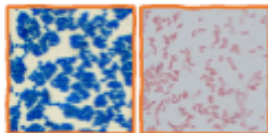


【細菌と細菌感染症】

細菌は大きさはわずか数マイクロメートル（1マイクロメートルは1ミリメートルの1/1000）の微生物です。肉眼では見えず、顕微鏡で1000倍に拡大してやっと観察できます。自然環境中からヒトの皮膚や腸内にいたまま、あらゆるところに生息しています。

細菌が傷口や口腔などからヒトの体内に侵入すると「細菌感染症」を引き起こします。細菌の種類や感染部位により、化膿や膀胱炎、肺炎や食中毒など、さまざまな症状を呈します。

私たちの体を守る免疫細胞が細菌を追いつくことで細菌感染症が治癒します。しかし細菌がとても強力だったり、こちらの免疫力が弱っていたりすると、なかなか治らずに重症化し、場合によっては命を落とすこともあります。



細菌の顕微鏡観察画像（いずれも黄色い）
左）黄色ブドウ球菌（直径1μmの球状）
右）大腸菌（長さ2～4μmの棒状）

【抗菌薬と薬剤耐性菌】

細菌の増殖を止める作用を持つ「抗菌薬」（一般的には抗生物質と呼ばれることも多い）は、細菌感染症の治療にとても有効です。さまざまな種類の抗菌薬が開発され、世界中でたくさんの人々を細菌感染症から救っています。ところが、抗菌薬を治療に使用していると、まれに一部の細菌が抗菌薬に耐性を持つ性質に変化してしまうことがあります。このような「薬剤耐性菌」が引き起こす感染症は、いままで使用できていた抗菌薬では治療ができなくなります。

【抗菌薬が治療に使えなくなる！？】

日本でもメチシリン耐性黄色ブドウ球菌（MRSA）をはじめ、多剤耐性緑膿菌やカルバペネム耐性菌など、さまざまな薬剤耐性菌が出現しており、患者の治療が困難となる症例が増加しています。薬剤耐性菌はいま増加の一途を辿っており、「2050年には薬剤耐性菌による死者数が全世界で毎年約1000万人に達する」との予測もあります。このままでは細菌感染症を薬で治療できない時代が到来してしまいます。



抗菌薬感受性を調べるディスク試験法
左）通常の黄色ブドウ球菌
右）メチシリン耐性黄色ブドウ球菌（MRSA）

黄色ブドウ球菌に有効な抗菌薬を含んだディスクの周囲では、黄色ブドウ球菌（左）は増殖できません。しかし耐性菌MRSA（右）はディスクの周囲でも増殖できています。

【薬剤耐性菌の蔓延に歯止めをかける】

薬剤耐性菌の出現をこれ以上加速させないため、医療の現場では「抗菌薬の適正使用」を推進しています。医療機関では、細菌を原因としない感染症（たとえばたばこの風邪）の治療に抗菌薬を処方しないように注意しています。また、患者さんには、薬局で調剤された抗菌薬を指示通りに最後まで飲み切ることを徹底してもらっています。これらの取り組みにより、薬剤耐性菌の出現を最小限に抑えることができます。

【新しい抗菌薬を開発するために】

抗菌薬を使用し続ける限り、薬剤耐性菌の出現を止めることは不可能です。したがって、適正使用により薬剤耐性菌の蔓延を遅らせるだけでは不十分で、新しい抗菌薬の開発も急務です。

私たちの研究室では新しい抗菌薬を開発するための糸口を求めて、「抗菌薬の暴露に反応する細菌内部の分子群」に着目した研究を進めています。このような分子群の中には未知の薬剤耐性獲得メカニズムに関わっているものがあると考えられるので、その発見は既存の抗菌薬とは異なる新しい作用機序を持つ抗菌薬開発の手がかりとなる可能性があります。抗菌薬が効かない未来を変える一助となれるよう、学生たちは日々実験を頑張っています。

所属学生の声



名前：Aさん（仮名）
学年：5年生
出身：群馬県
趣味：吹奏楽
研究対象：黄色ブドウ球菌



-薬学部に入学したきっかけは？

母が薬剤師だったので、自分も薬剤師になりたいという憧れがあり、薬学部を受験しました。

-所属先に微生物学研究室を選んだのは？

薬学部では薬に関連する幅広い領域を勉強します。私は生物系の授業に興味があり、2年生のときに受講した微生物学の授業を面白く感じたことが、微生物学研究室を選んだ決め手になりました。

-どんな研究をしていますか？

黄色ブドウ球菌の薬剤耐性に関わっているかもしれない遺伝子の機能について、抗菌薬感受性における役割を中心に調べています。

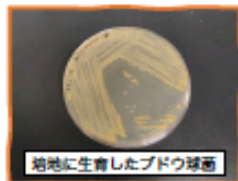
-研究室生活で一番印象に残っていることは？

学会で自分の研究成果を発表できたことです。発表直前はとても忙しく、実験や発表準備で休みの日も潰れてしまいましたが、良い経験になりました。他の大学の研究発表を聞いたのも楽しかったです。

-将来どのような薬剤師になりたいですか？

認定薬剤師・専門薬剤師など、高い専門性を身につけた薬剤師になりたいです。将来的には地元の地域医療に貢献したいと考えています。

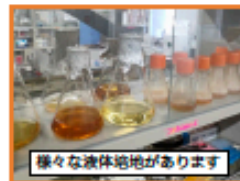
研究活動を見学させてもらいました



培地に生育したブドウ球菌



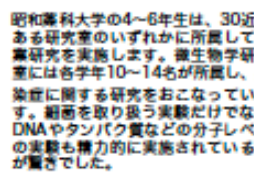
寒天培地を作製中です



様々な液体培地があります



先輩が教えてくれます



昭和薬科大学の4～6年生は、30近くある研究室のいずれかに所属して卒業研究を実施します。微生物学研究室には各学年10～14名が所属し、感染症に関する研究をおこなっています。細菌を取り扱う実験だけでなく、DNAやタンパク質などの分子レベルの実験も積極的に実施されているのが驚きでした。



ゼミのようす



核酸の精製



薬剤耐性遺伝子の分析



タンパク質の解析

3)まちづくり交流会

ユニコムプラザでは、利用する団体間の交流や団体活動の周知広報のためにまちづくりフェスタを開催しています。本学からは特別な展示コーナーの設置や、イベントデーでの「だれでもできるダンス」講座等で参加してきました。

2022年度

2022年10月1日から10月30日まで、第10回ユニコムプラザさがみはら まちづくりフェスタ交流展示会に出展しました。この催しは地域、大学、市民の活動内容を展示し、紹介する内容です。

相模原市との連携の強化を目的として、ユニコムプラザさがみはら内の大学情報コーナーの展示の充実に努め、16日の「イベントデー」にはダンス愛好会が「みんなで健康」を合言葉にだれでもできる簡単なステップを紹介する企画を実施しました。「交流展示会」には、入試情報、最新の研究の紹介、関連する目で見て体験できる実験コーナーを、ポスターとディスプレイモニターで展示しました。

2023年度

2023年10月15日、ユニコムプラザまちづくりフェスタに本学ダンス愛好会が参加しました。当日は、「薬学生とダンスを踊ろう、ワークショップ」と題して、「みんなで健康」を合言葉にだれでもできる簡単なステップを紹介する企画を実施しました。



第10回ユニコムプラザさがみはら
まちづくりフェスタイベントデー

参加企画
昭和薬科大学
ダンス愛好会

【薬学生とダンスを踊ろう！ワークショップ】
健康増進に繋がるような簡単なステップを
マスターして一緒に踊りましょう！

開催日:10月16日(日)
時間:①10:00~10:30
②11:00~11:30
場所:マルチスペース
参加費用:無料(要予約)
問い合わせ先:昭和薬科大学地域連携センター
(chiiki@ac.shoyaku.ac.jp)

3年ぶりに活動を再開しました！
参加お待ちしております！

申し込みは右のQRコードのページからお願いします。

URL <https://www.shoyaku.ac.jp/form/ck8d5r>

昭和薬科大学
ダンス愛好会

第11回ユニコムプラザ
まちづくりフェスタ
イベントデー

薬学生とダンスを踊ろう、
ワークショップ！

一緒に踊って、健康増進につながる
簡単なステップをマスターしましょう。

開催日:10月15日(日曜日)
時間:①14:00-14:45
②15:00-15:45
場所:ロビーエリア
参加費用:無料

問い合わせ先:昭和薬科大学地域連携センター
chiiki@ac.shoyaku.ac.jp

2022年度
の様子です！

申し込みはこちらから

▲まちづくり交流会での「健康ダンス」チラシと様子

2022年度

① 薬の効果を目で見てみようーいのちを守る抗菌薬のはたらきー

② 実験で体験しよう！～混ぜると光る化学の不思議～

2022年8月18日（木）、19日（金）に 本学にてさがまちカレッジ講座（実験講座）を開催しました。今年度は、「薬の効果を目で見てみようーいのちを守る抗菌薬のはたらきー」、「実験で体験しよう！～混ぜると光る化学の不思議～」と題して、実験講座を開催しました。8月18日は、定員12名中、応募人数27名、参加者は11名、8月19日は、定員24名中、応募人数25名、参加者は23名でした。①の講座では、感染症の原因となる微生物のうち、「細菌」に焦点を当てます。まずは医療の現場でも使われている簡単な実験操作によって、細菌の姿を顕微鏡で観察しました。続いて、そんな細菌をたおして感染症を治療するくすり、「抗菌薬（こうきんやく）」のはたらきを知るために、抗菌薬が細菌に引き起こす変化を観察しました。②の講座ではノーベル賞を受賞した鈴木・宮浦・クロスカップリング反応を実際に体験しました。試験管に化合物を加え、反応を起こすと、青白い光を受けて輝く様子を見ることができて、子どもたちは感動していました。

参加した中学生や高校生からは、「興味深い講義や実験で、とても面白かったです」との感想を多数いただきました。本講座は、さがまちコンソーシアム（相模原・町田大学地域コンソーシアム）が主催し、本学地域連携センターが協力して開催されました。

A2220625					
薬の効果を目で見てみようーいのちを守る抗菌薬のはたらきー				対象：中学生・高校生	
日程	時間	講師	定員	費用	会場
8月18日（木）	14：15～15：45	昭和薬科大学 薬学部 講師 梶川 瑞穂先生	12人	1,200円 (教材費含む)	昭和薬科大学
新型コロナウイルス感染症が世界中で大流行し、学校や社会における日常は大きく変わってしまいました。私たちの健康に害をなす感染症を引き起こすのは、ウイルスや細菌、カビなどの、目には見えないほど小さい「微生物」です。この講座では、感染症の原因となる微生物のうち、「細菌」に焦点を当てます。まずは医療の現場でも使われている簡単な実験操作によって、細菌の姿を顕微鏡で観察します。続いて、そんな細菌をたおして感染症を治療する薬、「抗菌薬（こうきんやく）」のはたらきを知るために、抗菌薬が細菌に引き起こす変化を観察します。細菌はどのようになってしまうのでしょうか？					
A2220626					
実験で体験しよう！～混ぜると光る化学の不思議～				対象：中学生・高校生	
日程	時間	講師	定員	費用	会場
8月19日（金）	10：30～12：00	昭和薬科大学 薬学部 講師 石田 寛明先生	18人	1,200円 (教材費含む)	昭和薬科大学
医薬品がどのように作られているのか知っていますか？ その多くは「有機合成反応」によって作られているのです。本講座では、2010年にノーベル賞を受賞された北海道大学の鈴木章先生が開発した「鈴木カップリング反応」が医薬品の製造にどのように使われているかを紹介します。さらに、鈴木カップリング反応を実際に体験してもらいます。また近年、蛍光色素や蛍光分子による創薬研究や診断法の開発が進んでいます。有機化学反応が進行すると蛍光を発して光る分子を実際に合成してみましょう。					

6.学習をさらに深めたいと思ったか

	中学生	高校生
大いにそう思う	5	3
そう思う	2	1
どちらとも言えない		
あまりそう思わない		
そう思わない		
無回答		

9.受講して満足したか

	中学生	高校生
大いにそう思う	5	3
そう思う	2	1
どちらとも言えない		
あまりそう思わない		
そう思わない		
無回答		



▲薬の効果を目で見てみようーいのちを守る抗菌薬のはたらき

6.学習をさらに深めたいと思ったか

	中学生	高校生
大いにそう思う	9	4
そう思う	6	2
どちらとも言えない	2	
あまりそう思わない		
そう思わない		
無回答		

9.受講して満足したか

	中学生	高校生
大いにそう思う	15	6
そう思う	2	
どちらとも言えない		
あまりそう思わない		
そう思わない		
無回答		



▲実験で体験しよう！～混ぜると光る化学の不思議

正しく学ぼう、 乳がんのこと ー治療と薬剤師の役割についてー

国民の2人に1人ががんにかかる時代と言われています。身近な病気となったがんですが、早期発見・早期治療が重要です。がんの発見や治療にかかわる薬学的観点からの最先端の治療や技術について解説します。この講座では、一般の方にも知ってほしい乳がんに関する病気や治療(特に薬物治療)についてお話します。さらに、がんの治療が医療チームで行われることが当たり前の時代となった現在の乳がん治療における薬剤師の役割についてもお話します。

日 時 10月29日(土) 10:30~12:00
場 所 昭和薬科大学(町田市東玉川学園3-3165)
JR横浜線成瀬駅から徒歩、または小田急線玉川学園前駅徒歩約15分
講 師 昭和薬科大学実践薬学部 教授 渡部 一宏氏
対 象 一般の方
定 員 20名(申込順 定員になり次第締め切ります)
参 加 費 1,200円



※受講の際は、新型コロナウイルス感染症感染予防のため、マスク着用、手指消毒等をお願いしております。
また、今後の感染拡大状況や自治体等の方針に応じて、延期または中止となる場合があります。

〈お申込み方法〉

裏面の受講申込書に必要事項を記入のうえ、郵送またはFAX(042-703-8536)にてお申し込みください。
または、さがまちコンソーシアムホームページのさがまちカレッジ申し込みフォームに必要事項を入力して、送信してください。

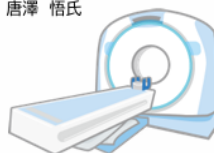


画像診断の仕組みと 診断薬のお話

体調異変を何から判断しますか? 体温、血圧測定や脈拍などは大事なバイタルサインですね。このように体を傷つけることなく、外から見られる方法を非侵襲的診断法(ひしんしゅうてきしんだんほう)と言います。一時期話題となり注目されたパルスオキシメーターも非侵襲的診断法の一つです。

この講座では、さまざまな画像診断法について、また、画像診断に使われる造影剤についてわかりやすく解説します。

日 時 11月24日(木) 14:00~15:30
場 所 町田市生涯学習センター(町田市原町田6-8-1 町田センタービル6階)
JR横浜線町田駅徒歩3分 小田急線町田駅徒歩5分
講 師 昭和薬科大学薬品分析化学研究室 教授 唐澤 悟氏
対 象 一般の方
定 員 20名(申し込み多数の場合は抽選します)
参 加 費 1,200円
申込締切 11月1日(火)〈必着〉



※受講の際は、新型コロナウイルス感染症感染予防のため、マスク着用、手指消毒等をお願いしております。
また、今後の感染拡大状況や自治体等の方針に応じて、延期または中止となる場合があります。

〈お申込み方法〉

裏面の受講申込書に必要事項を記入のうえ、郵送またはFAX(042-703-8536)にてお申し込みください。
または、さがまちコンソーシアムホームページのさがまちカレッジ申し込みフォームに必要事項を入力して、送信してください。



お問い合わせ・お申込み先

公益社団法人相模原・町田大学地域コンソーシアム
さがまちコンソーシアム 事務局 住所: 〒252-0307 相模原市南区文京2-1-1 相模女子大学内
TEL: 042-747-9038 FAX: 042-703-8536 E-mail: info@sagamachi.jp
ホームページ: <https://sagamachi.jp/> お問合せ時間: 月~金曜日(祝日を除く) 9:00~12:00 13:00~17:00

③ 正しく学ぼう、乳がんのこと～治療と薬剤師の役割について～

2022年10月29日(土)、渡部一宏先生が講師を務め、「正しく学ぼう、乳がんのこと～治療と薬剤師の役割について～」を開催しました。

国民の2人にひとりががんにかかる時代と言われています。身近な病気となったがんですが、早期発見・早期治療が重要です。がんの発見や治療にかかわる薬学的観点からの最先端の治療や技術について概説します。この講座では、一般の方にも知ってほしい乳がんという病気やその治療（特に薬物治療）についてお話をしました。更に、がんの治療は医療チームで行われることが当たり前の時代となり、乳がん治療における薬剤師の活動についてもお話をしました。

④ 画像診断の仕組みと診断薬のお話し

2022年11月24日(木)、町田市生涯学習センターにて、唐澤 悟先生を講師に、一般の方を対象にさがまちカレッジ講座「画像診断の仕組みと診断薬のお話し」を開催しました。当日は9名が参加しました。

この講座では、さまざまな画像診断法について、また、画像診断に使われる造影剤についてわかりやすく解説しました。科学技術週間に関わる一家に一枚のポスター等のお土産を配布しました。好評のうちに終了しました。

2023年度



さがまちカレッジ

学ぶことは、面白い ー暮らしの中の身近な学びー

さがまちコンソーシアムでは、学びの楽しさを伝えていきたいとの願いから、夏休みに中学生、高校生を対象にした様々な講座を皆様にお届けします。
この夏は、さがまちカレッジで学校とは少し違う「学びの体験」をしてみませんか！

2023年夏休み

vol.2

中学生・高校生対象講座

A2320628

申込期限 7月17日(月)

対象：中学生・高校生

実験で体験しよう！～混ぜると光る化学の不思議～



日程	時間	講師	定員	費用	会場
8月22日(火)	10:30～12:00	昭和薬科大学 薬学部 講師 石田 寛明先生	24人	1,200円 (教材費含む)	昭和薬科大学

医薬品がどのように作られているのか知っていますか？ その多くは「有機合成反応」によって作られているのです。本講座では、2010年にノーベル賞を受賞された北海道大学の鈴木章先生が開発した「鈴木カップリング反応」が医薬品の製造にどのように使われているかを紹介します。さらに、鈴木カップリング反応を実際に体験してもらいます。また近年、蛍光色素や蛍光分子による創薬研究や診断法の開発が進んでいます。有機化学反応が進行すると蛍光を発して光る分子を実際に合成してみましょう。



さがまちカレッジ

学ぶことは、面白い ー暮らしの中の身近な学びー

さがまちコンソーシアムでは、学びの楽しさを伝えていきたいとの願いから、夏休みに中学生、高校生を対象にした様々な講座を皆様にお届けします。
この夏は、さがまちカレッジで学校とは少し違う「学びの体験」をしてみませんか！

2023年夏休み

vol.2

中学生・高校生対象講座

A2320627

申込期限 7月17日(月)

対象：中学生・高校生

薬の効果を目で見ようーいのちを守る抗菌薬のはたらきー

日程	時間	講師	定員	費用	会場
8月21日(月)	13:30～15:00	昭和薬科大学 薬学部 講師 梶川 瑞穂先生	12人	1,200円 (教材費含む)	昭和薬科大学

新型コロナウイルス感染症が世界中で大流行し、学校や社会における日常は大きく変わってしまいました。私たちの健康に害をなす感染症を引き起こすのは、ウイルスや細菌、カビなどの、目には見えないほど小さい「微生物」です。この講座では、感染症の原因となる微生物のうち、「細菌」に焦点を当てます。まずは医療の現場でも使われている簡単な実験操作によって、細菌の姿を顕微鏡で観察します。続いて、そんな細菌をたおして感染症を治療する薬、「抗菌薬(こうきんやく)」のはたらきを知るために、抗菌薬が細菌に引き起こす変化を観察します。細菌はどのようになってしまうのでしょうか？

① 薬の効果を目で見てみよう：いのちを守る抗菌薬のはたらき

② 実験で体験しよう：混ぜると光る化学の不思議

2023年8月21日昭和薬科大学にて、薬の効果を目で見てみよう：いのちを守る抗菌薬のはたらき（梶川瑞穂先生）を開催しました。また、2023年8月22日（火）、石田寛明先生が講師を務め、さがまちカレッジ講座「実験で体験しよう！～混ぜると光る化学の不思議～」を開催しました。



③ 金属は体にとって必要？～金属含有医薬品の話～

2023年11月24日(木)町田市生涯学習センターにて、唐澤悟先生を講師に、一般の方を対象にさがまちカレッジ講座「金属は体にとって必要？～金属含有医薬品の話～」を開催しました。

2024年度

さがまちカレッジ実験講座を開催しました。2024年度より、さがまちカレッジの講座はさがまち地域教育連携プラットフォーム事業の公開講座にも位置付けられています。

1) 2024年8月20日（火）10：30～12：00
実験で体験しよう！～混ぜると光る化学の不思議～
講師 石田 寛明 先生
2) 2024年8月23日（金）10：30～12：00
実験で体験しよう！～水がつかめる？人工イクラ？「ゲル」の不思議～
講師 石田 寛明 先生
3) 2024年10月8日（火）10：00～11：30
遊びで育つ子どもたち：主体性から始まる発達のプロセス
教授 吉永 真理 先生

4) 2024年10月26日(土)13:30~15:00
感染症の歴史
教授 金本 大成 先生
5) 2024年11月8日(金)10:00~11:30
私たちの健康に関わる放射線について知ろう
教授 岸本 成史 先生
6) 2024年11月30日(土) 13:00~14:30
感染症を予防するワクチン
教授 金本 大成 先生
7) 2024年11月30日(土) 15:00~16:30
薬学講座 投与後の痛み止めの化学
教授 伊藤 俊将 先生
8) 2025年2月11日(火・祝) 10:00~11:30
親子で体験するスキンケアのワークショップ
講師 神林 弾 先生

1) 混ぜると光る化学の不思議

2024年8月20日、2010年ノーベル化学賞を受賞した鈴木・宮浦クロスカップリング反応を実際に体験しました。反応前は暗いままだった試験管に化合物を加えて反応を起こすと、青白い光を受けて、輝く様子を見ることができて、子どもたちは感動した様子でした。保護者の方も後ろから覗き込んで、スマホで我が子の姿を写真に撮っていました。補助役として医薬分子化学研究室の4年生が参加しました。白衣姿がさまになっており、中高生たちに薬学部への興味関心を惹起したようでした。



2) 水がつかめる？人工イクラ？「ゲル」の不思議

2024年8月23日、初めて行う実験プログラムでした。初日と連続して来てくれた中高生もいました。目の前に揃えられた材料が多くて、どんなことができるのだろうと、始まる前から覗き込んだり、ソワソワしたりする様子が見られました。スポイトから少しずつ滴下したとたん、ビーカーの中に丸いゲルが現れ、滴下のスピードを変えるとさまざまな形を作ることができ、参加者は何度も繰り返していました。より大きなビー玉のようなゲルを作るために用意された道具は身近な材料で意外なものでしたが(来年のお楽しみのために秘密)、講師を務めた石田寛明先生のアイデアだそうです。



4) 遊びで育つ子どもたち：主体性から始まる発達のプロセス

2024年10月8日、ユニコムプラザさがみはらにて「遊びで育つ子どもたち：主体性から始まる発達のプロセス」を開催しました。吉永真理教授が講師を務めました。当日は8名の受講者と、学生スタッフ3名でワークを行いながら、「子どもの主体性とは？」というテーマを学びました。

いくつかの発達心理学の理論を紹介しながら、子どもの認知や社会性と情動の発達がどのように行われるかをお話しし、実際に子どもの世界が身の回りの範囲から次第に広がって、関わる人やものが増えていく様子を説明しました。お腹の中にいる時から、子どもは環境と相互作用をしながら発達しますが、子どもが動き環境の刺激を受け取り、次にまた動くというプロセスがあることを、乳幼児期の子どもの遊びが変化していく写真と共に示しました。

その後、受講者の子どもの頃の遊びの話を学生が聞き取る形で、聴取し、発表しあいました。仲間も時間も空間も不足している、現代の子どもの遊び環境の貧弱さを思い至りながら、子どもの権利である遊びを、自由に思い切りできるかについて意見交換しました。

ぶっつけ本番でしたが、学生とロールプレイを行い、先回りして準備してもらえる状態、放っておかれる状態、気にかけてもらえるけど子どもが動くのを待ってもらえる状態、を経験した時の気持ちを話してもらいました。子どものやりたいという主体性が生じるのは、どのようななかかわりの中からか、正解はないものの、子どもの気持ちを大切にすることが大事であることを学生と受講生ともども学ぶことができました。



4) 感染症の歴史

2024年10月26日、さがまちカレッジ講座「感染症の歴史～新興感染症とは何か～」を昭和薬科大学の学園祭（昭薬祭）の1日目に開催しました。講師は金本大成教授でした。当日は18名の受講者が学びました。感染症は人類進化の過程の非常に古い時代から、人間社会に出現し、多くの人類の生命を奪ってきました。一口に感染症と言っても、原因となる微生物の種類はさまざま、感染の仕方や症状の発現にはそれぞれ特徴があります。原因が微生物であるとされたのは近代に入ってからで、それまでは、「悪い空気」が原因となっているなどと捉えられ、あまりに大きな被害があった場合には、為政者は宗教と信仰の力を借りた時代もありました。奈良の大仏は天然痘の蔓延をおさめるために制作されたと言われています。

近代微生物学の時代になると迷信から科学へ、感染症の



原因をめぐる考え方は大きく変化します。病原細菌の発見が続き、北里柴三郎など日本の学者も活躍しました。やがてウイルスが発見され2度なし現象から予防接種/ワクチンの導入に至ります。抗菌薬が発見され発展しますが、やがて感染症を克服できるという夢が壊される時代になっていきます。古くから人類の脅威として認識されてきた感染症以外に、新しく出現した、あるいは昔から症状は知られていたが、感染症と認識されてきたのが最近である感染症、「新興感染症」についても学びました。

新興感染症である新型コロナウイルスCOVID-19は、甚大な被害をもたらしたのですが、2021年に世界中で亡くなった人は6,800万人に登ったことが紹介されました。

環境の変化により感染症が蔓延する機会はいくらも多くなりそうですが、基本的な対策は新興感染症でも従来の感染症でも共通で、正確な知識、感染経路の遮断、ワクチン・治療薬であるという指摘がありました。

質疑応答も活発で、「Mボックスは今後どうなるか?」「新しいタイプのワクチンが使用されるようになったが、どう考えればいいか?」などなど、熱心な質問が続きました。

5) 私たちの健康に関わる放射線について知ろう

2024年11月8日、なるせ駅前市民センターにて「私たちの健康に関わる放射線について知ろう」を開催しました。岸本成史教授が講師を務めました。



6) 感染症を予防するワクチン

2024年11月30日、ユニコムプラザさがみはらにて「感染症を予防するワクチン～はたらく細胞とワクチンのしくみ～」を開催しました。金本大成教授が講師を務めました。



7) 薬学講座～投与後の痛み止めの化学～

2024年11月30日、ユニコムプラザさがみはらにて「薬学講座～投与後の痛み止めの化学～」を開催しました。伊藤俊将教授が講師を務めました。



8) 親子で体験するスキンケアのワークショップ

2025年2月、ユニコムプラザさがみはらにて「親子で体験するスキンケアのワークショップ」を開催しました。神林弾先生が講師を務めました。



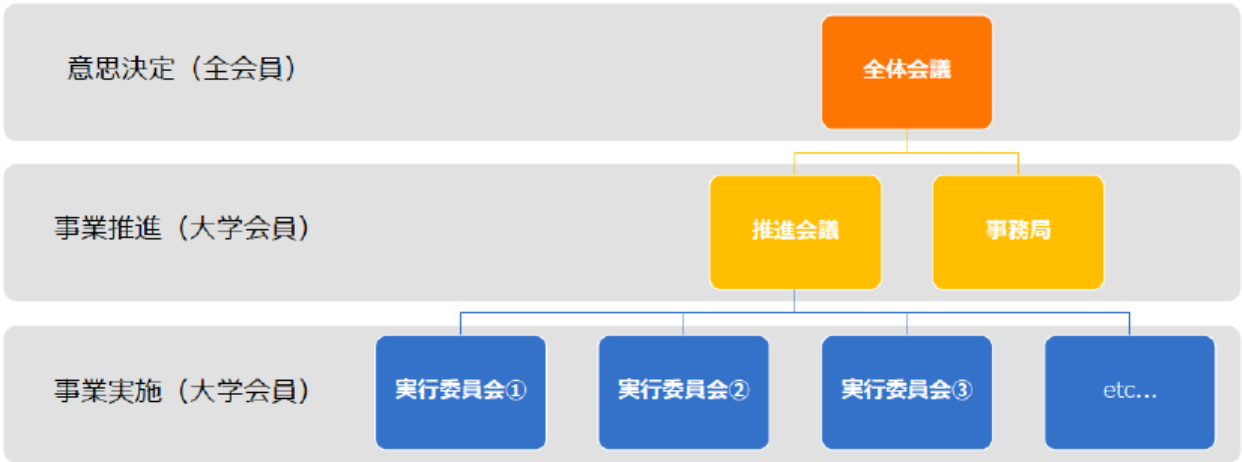
<3> 相模原・町田（さがまち）地域教育連携プラットフォーム事業

1) 全体の枠組み



- さがまち地域教育連携プラットフォーム設置の目的
 - ・ 大学、自治体、産業界等による連携体制の強化
 - ・ 地域 課題 を解決し、地域の維持・発展に寄与
- 活動目標
 - ・ 改革総合支援事業タイプ3（プラットフォーム型）の採択
 - ・ その他、具体的な指標を中長期計画にて策定
- さがまちコンソーシアムとの関係
 - ・ 有志のさがまちコンソーシアム会員によって構成する。
 - ・ さがまち地域教育連携プラットフォーム（PF）設置後は、改革総合支援事業において求められている取り組みとコンソーシアムの既存事業との整合性を図りつつ、長期的な視点でPFとさがまちコンソーシアムとの一体化を目指す。
- 組織体制

代表校	青山学院大学
副代表校	昭和薬科大学
幹事校	和泉短期大学
	桜美林大学
	北里大学
	相模女子大学・相模女子大学短期大学部
監事	サレジオ工業高等専門学校
事務局	青山学院大学（庶務部社会連携課）
自治体	相模原市 町田市
事業者	相模原商工会議所 町田商工会議所
オブザーバー	玉川大学





■ 事業実施に係る運用案に示されている実行委員会一覧

(◎ 昭和薬科大学が責任大学、○昭和薬科大学が実行委員)

単位互換実行委員会 (○)、共同研究実行委員会、共同FD・SD実行委員会、共同IR実行委員会、施設の共同利用実行委員会、人事交流実行委員会、高大連携実行委員会 (◎)、教育支援活動実行委員会、公開講座実行委員会 (○)、キャリア形成支援プログラム実行委員会、就職セミナー実行委員会 (○)、地域交流イベント実行委員会

2) 昭和薬科大学の活動

大学合同説明会

2024年7月20日、相模原・町田地域教育連携プラットフォーム事業の一環で、参加校6校（青山学院大学、和泉短期大学、桜美林大学、北里大学、相模女子大学、昭和薬科大学）による「さがまち地域高校生向け合同説明会」を開催しました。





▲共同作成した合同大学説明会用のリーフレット(A3タテに6つ折り)



▲当日の様子

公開講座

さがまちカレッジと連携して開催しました(2024年度算定可能なのは9月末まで)。

開講時期Ⅱ期=7月~9月、夏休み=7月下旬~9月、Ⅲ期以降=10月~3月

その他の活動

単位互換実行委員会にも参加し、学内で実際に単位互換を実施可能かどうか検討しています。そのほか、教育支援(キッズ・スポーツチャレンジ)やキャリア形成支援にも学生有志が参加しました。共同FDには学長が参加しています。また今後はリスクマネジメントの一環として防災に関わる実行委員会でも協働していく予定です。

6. 科学技術週間（文部科学省）への参画

文部科学省が実施している科学技術週間（<https://www.mext.go.jp/stw/>）に取り組を行い、地域のサイエンスへの関心をより高めました。「科学技術週間」は、科学技術について広く一般の方々に理解と関心を深めていただき、日本の科学技術の振興を図ることを目的として昭和35年2月に制定されました。毎年4月18日の「発明の日」を含む1週間（月曜日に始まり日曜日に終わる）は「科学技術週間」と定められています。全国の各機関では、おもにこの期間に各種科学技術に関するイベントなどを実施することとなっています。

（文部科学省 科学技術週間，<https://www.mext.go.jp/stw/outline.html>）

2022年度

1) 電子顕微鏡でミクロの世界をのぞいてみよう

2022年4月24日、科学技術週間にイベントを開催しました。

地域連携センターでは、南町田子どもクラブつみき（<https://kosodate-machida.tokyo.jp/soshiki/4/2/10/7532.html>）で、子ども向けのサイエンス講座「電子顕微鏡でミクロの世界をのぞいてみよう」を行いました。

イベントでは2つのプログラムを行いました。

1. 電子顕微鏡ってどんなもの？
2. 電子顕微鏡体験（顕微鏡体験、標本スケッチ、3D写真観察）



2023年度

1) 電子顕微鏡でミクロの世界をのぞいてみよう

2023年4月20日 科学技術週間

（<https://stw.mext.go.jp/event.html>）に、「鶴間小学校でミクロの世界をのぞいてみよう」を開催しました。

内容は2022年度同様、2つのプログラムを行いました。

1. 電子顕微鏡ってどんなもの？
2. 電子顕微鏡体験（顕微鏡体験、標本スケッチ、3D写真観察）

昨年度までの子どもクラブつみきから、近隣の鶴間小学校へ場所を移して実施しました。事前に浦木校長先生、日本電子株式会社の方との打ち合わせを実施し、当日は、2時間目に6年生3クラスが体育館で講義を受け、その後3クラスが1時間ずつ電子顕微鏡の操作体験を行いました。



児童の感想：

- ・ ミクロの世界は面白い！
- ・ 顕微鏡で見た時と見えるものが違った
- ・ 竹の断面が髑髏に見えた
- ・ ピントがオートで自動に合い指で動かせるのが簡単に思えた
- ・ 立体的に見えてワクワクした
- ・ 2時間じゃ足りないくらい楽しく発見があった
- ・ 3Dメガネの観察も面白かった。



2) まちライブラリーにおける「科学の本棚」コーナー

2022年度～2024年度、南町田グランベリーパークのまちライブラリーにて、「みんなで作ろう 科学の本棚@南町田パークライフ・サイト」を開催しました。



内容は、

1. 「科学」に関する本を見つけて、特設本棚に飾ってみましょう。
2. 写真を撮って、Twitter やInstagramに#科学の本棚で投稿してください。
3. 科学技術週間の「一家に一枚」シリーズからお好きなポスターを差し上げます。

とし、期間中、ライブラリー内の科学の本を集めた本棚を、来館者が協力して作りました。文部科学省の一家に一枚のポスターはすべて配布されました。毎年、大変好評でした。

7. 地域活動実践プログラム

2023年度

学生が大学ではできない体験を地域で見つけるための仕組みとして「地域活動実践プログラム」が始まりました。学生は地域で展開されている様々な活動に参画し、多様な体験を得ることができました。

1) 地域活動説明会（オリエンテーション）

2023年6月10日、地域インターンシップの説明会、先輩活動経験者によるトークセッション等を行いました。参加者は24名でした。

参加者募集!

地域インターンシップにチャレンジ!
大学ではできない体験を地域で見つける!

地域活動説明会



オリエンテーションへのお申込はコチラ



- ✓ 地域活動を通してやりたいことを見つけたい
- ✓ 地域や社会に貢献して将来の仕事に活かしたい
- ✓ 地域に密着した薬剤師になりたい

はじめてでも大丈夫! まずはオリエンテーションにご参加ください☆

オリエンテーション
6/10 土
13:00~14:30
@昭和薬科大学 第二講義棟 201

マッチング会
7/1 土
10:00~12:00
@昭和薬科大学 (会場未定)

※オリエンテーションのみの参加も歓迎です。
※オリエンテーション参加後、地域インターンシップにエントリーされる場合は改めてお申込みいただけます。以降の流れについては裏面をご覧ください。

●オリエンテーションのプログラム (予定)

- *先輩活動経験者によるトークセッション (昭和薬科大学卒業生・理系大学卒業生)
- *地域インターンシップの説明会
- *地域活動をするときのコツ等の紹介

主催: 昭和薬科大学地域連携センター
お問い合わせ: chiki@ac.shoyaku.ac.jp (地域連携センター)
運営: 一般財団法人町田市地域活動サポーターズオフィス

募集内容

期間/活動日数	8月~2024年1月/5日~8日間
内容	地域団体・企業にて活動体験やプロジェクトの実施等
募集	30名~50名程度
主な受け入れ先	町田市や周辺地域の地域団体、NPO、企業の社会貢献プロジェクト等
参加費	無料

活動の流れ

オリエンテーション	団体とのマッチング会	活動スタート!	報告会
6/10(土)13:00-14:30	7/1(土)10:00-12:00	8月~2024年1月	2月下旬



地域インターンシップの説明会を開催します(オンライン参加可)。また、先輩活動経験者によるトークセッションも行います。
*申し込みとオリエンテーションの参加は必須です。



受け入れ団体の活動紹介を聞いていただいたあとに個別相談の時間を設けます。本音を聞いてから活動してみたい団体を選び1~5希望まで選んでいただきます。



8月~2024年1月までの間、5~8日間の活動をさせていただきます。活動の日数や場所、方法(対面/オンライン)などは受け入れ団体の方と相談して決めていきます。



学生と受け入れ団体が集まり、活動報告会を行います。活動の成果や感じたこと等を共有します。参加学生の皆さんには「活動説明書」を発行してお渡しします。

Q&A

①オリエンテーション・団体とのマッチング会に参加してからプログラムへの参加を決めていいですか?
もちろん大丈夫です。説明会終了後に参加希望を再度取りますので、じっくり決めていただければと思います。

②地域活動が初めてなのですが大丈夫ですか?
初めての方ぜひ参加していただきたいプログラムです。オリエンテーションでは初めての方向けに活動のコツをお伝えします。また、活動で困ったときのためにITツールなどを使っていつでも相談できる場を作る予定です。

③どんな団体が参加しているのですか?
大学周辺で活動している地域団体や企業に受け入れていただきます。活動分野は福祉、子ども、スポーツ、地域の薬局などさまざまです(オリエンテーションで紹介)。1団体につき学生2~4名で一組に活動していただく予定です。



2) 地域団体向け説明会

2023年6月19日 地域団体向け説明会が開催されました。参加団体は10団体でした。

**学生受入
団体募集!** \ 昭和薬科大学学生×地域団体 /

若者と一緒にまちづくり!

地域インターンシップ



説明会へのお申込はこちら

✓ 若者の発想や得意なことを活動に取り入れたい
✓ この機会に新しい取り組みにチャレンジしたい
✓ 昭和薬科大学の学生さんと交流したい

ご参加検討中の団体の方、まずは説明会にご参加ください☆

団体向け説明会
6/19 月
15:00～16:30
◎成瀬コミュニティセンター

学生とのマッチング会
7/1 土
10:00～12:00
◎昭和薬科大学

※団体向け説明会参加後、学生の受入れ団体としてエントリーされる場合は改めてお申込みいただけます。
以降の流れについては裏面をご覧ください。

＊インターンシップとは＊
学生が在学中に自分の将来を選択するために、地域や企業での活動を体験するプログラムのことを指します。本企画では活動日数を定め、報告会などを通して学生の学びになるようなプログラムを実施します。

主催： 昭和薬科大学地域連携センター
お問い合わせ： info@machida-support.or.jp / 042-785-4871
運営： 一般財団法人町田市地域活動サポートオフィス

募集内容

期間/活動日数	8月～2024年1月 / 5～8日間
内容	学生が地域で活動を体験する機会・プログラムの提供
募集	8～10団体程度
受け入れ学生	各団体：昭和薬科大学の学生(1～6年生)2～4名ほど
参加費	無料

活動の流れ

団体向け説明会
6/19(月)15:00-16:30



本プログラムについて、団体向けの説明会を開催します。学生の受入れが初めての団体さんでも大丈夫！受け入れのコツや学生さんとの打ち解ける方法をお伝えいたします。

学生とのマッチング会
7/1(土)10:00-12:00



マッチング会では、学生に向けて1団体3分程度で活動紹介をしていただきます。また、学生との繋がり構築の場も予定しています。学生さんの心を掴むチャンスです！

活動スタート!
8月～2024年1月



8月～1月の間、5～8日間、学生と一緒に活動をしていただきます。活動の日程や場所、方法(訪問・オンライン)などは学生と相談して決めていただきます。

報告会
2月下旬



学生と受け入れ団体の報告会。活動の成果や感じたこと等を共有します。参加学生の皆さんには事務局より「活動証明書」を発行してお渡しする予定です。

Q&A

①説明会に参加してからプログラムへの参加を決めていいですか?
もちろん大丈夫です。説明会終了後に参加希望を再度取りますので、じっくり決めていただければと思います。

②学生の受け入れが初めてなので大丈夫ですか?
初めての団体にぜひ参加していただきたいプログラムです。説明会では受け入れのコツをお伝えいたします。また、活動の途中で困ったことがあれば町田市地域活動サポートオフィスへいつでもご相談ください。

③学生はどのように活動先(団体)を選ぶのでしょうか?
学生さんにはマッチング会終了後に第1～第3希望を提出していただきます。希望先を調整し、1団体につき2～4名程度の学生さんを受け入れていただく予定です。

3) 地域インターンシップ：学生とのマッチング会

2023年7月1日、学生とのマッチング会を開催しました。

主な参加団体：

- ・ 成瀬お助けたい：地域の困りごとを解決
- ・ 寺子屋ごはん：子どもの学習や生活の支援
- ・ Makana produce：イベント企画
- ・ 町田市子ども総務課：子どもの権利条例の普及企画
- ・ 東京都住宅供給公社：団地のコミュニティ活性化
- ・ 陽だまりカフェ：地域の居場所での活動
- ・ 町田市南第3高齢者支援センター：スマホ教室など
- ・ ASVペスカドーラ町田：サポーターとなってPR
- ・ ソフトバンク株式会社：スマホ教室など
- ・ まちモビ：バス停とその周辺の写真を投稿
- ・ オアシスの会：高齢者と若者で意見交換



4) 活動開始 (8月～)

2023年8月～2024年1月の5日～8日間を活動期間とし、学生とのマッチング会団体の活動紹介と団体メンバーとの個別相談等を行いました。活動日程や場所、方法については団体と相談の上決定しました。2月下旬に学生と受け入れ団体が集合し、活動報告会を実施しました。

表. 学生が参加した地域活動団体（延べ21人が参加）

DAYS BLG!
南第三高齢者支援センター
Makana produce
成瀬お助けたい
寺子屋ごはん
町田ゼルビアスポーツクラブ
ワン&オンリーいのちの会 東京・町田
ソフトバンク株式会社
町田市高齢者支援課介護予防サポーター広報チーム
陽だまりカフェ
東京都住宅供給公社（JKK東京）

2024年度

学生が大学ではできない体験を地域で見つけるための仕組みとして様々な活動を行いました。

1) 地域活動実践プログラム：オリエンテーション

2024年5月22日、地域インターンシップの説明会、先輩活動経験者によるトークセッション等を行いました。参加者は24名でした。

**2024年度
参加者
募集!**

大学の外に飛び出てチャレンジ☆

地域活動実践プログラム

オリエンテーションへのお申込はコチラ

昨年の参加学生の声

「地域活動でもって得たことの少ない年代と多くの事について協働的に活動することができ、このことが社会人になった際、後輩への先取り等に活かせると思った。」

「一部分ではあるが、実際に働いている人と関わり、その仕事の一部を体験できたことにより、仕事ができるというものが体験できた。」

「学生と教員です。丁寧に連絡と取り活動のサポートをしていただき、サポートがいて、安心して活動できた。地域活動をしている団体のことを知ることができたのがいいねの経験でした。」

オリエンテーション

5/22 水
16:00~17:30
②第二講義棟 413教室

マッチング会

6/19 水
16:00~18:00
②第二講義棟 413教室

●地域活動実践プログラムとは
昭和薬科大学の学生が地域活動に参加し、地域で学び実践すること、自己成長することを目指すプログラムです。

●オリエンテーションのプログラム（予定）

- ※本プログラムの説明
- ※先輩活動経験者によるトークセッション（昨年度参加学生・昭和薬科大学卒業生）

※左記日程で都合が合わない方には後日録画を共有します。

主催： 昭和薬科大学地域連携センター
運営： 一般財団法人町田地域活動サポートオフィス
お問い合わせ： chiki@ac.shoyaku.ac.jp（地域連携センター）

募集内容

期間/活動日数	8月～2025年1月／5日～8日間
内容	地域団体・企業にて活動体験やプロジェクトの実施等
募集	30名～50名程度
主な受け入れ先	町田市や周辺地域の地域団体、NPO、企業の社会貢献プロジェクト等
参加費	無料

活動の流れ

オリエンテーション	団体とのマッチング会	活動スタート!	報告会
5/22(水)16:00-17:30	6/19(水)16:00-18:00	8月～2025年1月	1月下旬(予定)
本プログラムの説明や希望を聞きます。また、先輩活動経験者によるトークセッションを行います。参加希望者には、本プログラムの説明や希望を聞きます。また、先輩活動経験者によるトークセッションを行います。	受け入れ団体の希望や希望を聞いていただき、希望の団体とマッチングします。また、先輩活動経験者によるトークセッションを行います。参加希望者には、本プログラムの説明や希望を聞きます。また、先輩活動経験者によるトークセッションを行います。	8月～2025年1月の間で、各一ヶ月間の活動を行います。活動の日程や場所、内容（活動内容やテーマ）などは、受け入れ団体の指示に従って決まります。	学生と受け入れ団体の関係性、活動の成果や学びなどを報告します。報告会や懇話会などを行います。報告会や懇話会などを行います。

Q&A

①オリエンテーション・団体とのマッチング会に参加してからプログラムへの参加を決めてもいいですか？
もちろん大丈夫です。説明会終了後に参加希望を再確認しますので、じっくり決めていただければと思います。

②地域活動が初めてなのですが大丈夫ですか？
初めての方にはぜひ参加していただきたいプログラムです。オリエンテーションでは初めての方向けに活動のコツをお伝えします。また、活動で困ったときのためにITツールなどを使っていつでも相談できる場を用意予定です。

③どんな団体が参加しているのですか？
大学周辺で活動している地域団体や企業に受け入れていただきます。活動内容は福祉、子ども、スポーツ、地域の清掃活動などさまざまです。1団体に2～4名で一緒に活動していただく予定です。

2) 地域活動実践プログラム：地域団体向け説明会

2024年5月27日、地域団体向け説明会が開催されました。参加団体は10団体でした。



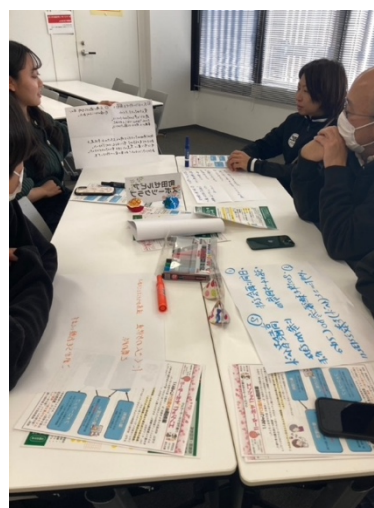
3) 地域活動実践プログラム：マッチング会

2024年6月9日、地域活動実践プログラムのマッチング会が開催されました。



4) 活動報告会

2025年1月31日（金）10:30～12:00、活動報告会を開催しました。振り返りワークとして、それぞれ、①活動を通して嬉しかったこと、②もう一歩だったと感じること、③団体/学生へのメッセージの3つをグループ内でシェアしました。また、学生が活動を通して学んだことや感じたことを1人ずつ発表しました。学生の発表の後には受け入れた団体の方からもメッセージをいただきました。活動を終えた学生には修了証、団体には感謝状が宇都口直樹学長より贈られました。

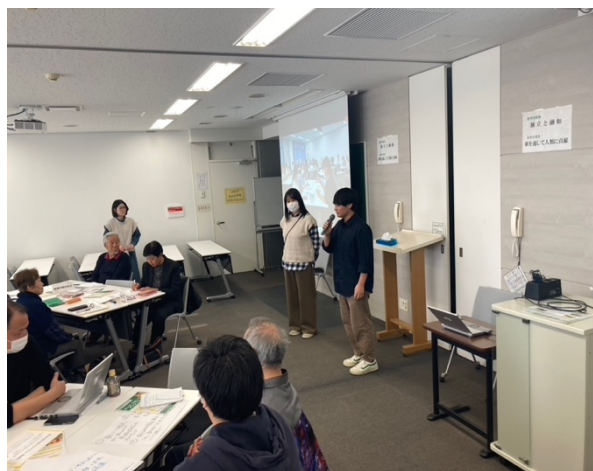


参加した学生の発表内容：

- ・ 催しの内容をきっかけに高齢者の方と話のきっかけを探ることができ良かったです。コミュニケーションをとるためにはいろんなことを知り興味を持つことが大切なのだと学びました。
- ・ 薬剤師の仕事の中身が意外と知られていないことに気が付きました。その内容を記事にできて良かったです。今後も情報発信していきたいです。
- ・ スタッフさんも子どもたちも距離が近くて楽しかったです。久しぶりに行っても子どもたちが名前を覚えていてくれたことが嬉しかったです。子どもたちと遊ぶときはいつも手が足りない・足が足りない状態で、スタッフさんがそれでも子どもたちの状況をよく見ていてとても勉強になりました。
- ・ 依頼主さんからまた僕個人にお願いしたいという声をいただいたことが嬉しかったです。悔しいなと思っているのは連絡会に参加できなかったことです。参加することで地域の方がどんなことに困っているのか知ることができたのだらうなと思います。
- ・ 子ども向けのイベントで子どもたちと遊んでいたときに、「両親にも子どもが何しているか分かるように遊ぶといよ」とアドバイスをもらいました。そのほうが親御さんも安心できるということがとても勉強になりました。

参加団体からのコメント：

- ・ イベントを企画する力はもちろんですが、コミュニケーション力や対話をする力が素晴らしいと思いました。こちらが勉強になりました。
- ・ これからも活動したいと言っていたことがとても嬉しかったです。スポンジのようにどんどん吸収していける姿がとても頼もしかったです。
- ・ とても優しい方で、子どもたちがすぐに学生さんのことを大好きになりました。マニュアルなしで現場に行っていたのですが、対応力もばっちりでした。
- ・ 自団体は60～70代が多いので、活動を一緒にやるだけでなく、どうやったら若い方にも参加してもらえるか学生さんのアイデア力も借りればよかったなと思っています。
- ・ 「高齢者向けのイベントはやらないんですか？」という学生さんの一言が団体の活動を大きく変えました。本人にとっては「何か言わなきゃ」と絞り出した一言だったと思いますが、そういった一言が団体の活動を後押しすることになる場合があるので、遠慮なくこれからも言ってほしいと思います。



▲活動報告会の様子

8. その他

<1> 大学周辺コミュニティとの交流

1) 成瀬台祭り

地域活動実践プログラムを通して、大学周辺の自治会である成瀬台2丁目町会と交流するようになった学生を中心に、秋の地域のお祭りに学生がたくさん参加しました。準備段階から関わり、当日も準備や運営を手伝いました。写真には黄色いビブスを着た薬科大生の姿がたくさん写っていました。

そのつながりがさらに活発化し、地域のバザーに協力しながら、今度は自分たちのお祭りである昭葉祭の宣伝をしました。その甲斐あり、2024年度の学園祭には非常に多くの来場者がありました。



2) 陽だまりカフェを拠点にした交流

地域の団体と大学をつなぐ役割を担い、集う場となっているのが、陽だまりカフェです。さまざまな催しを開催する住民が集まり、またお祭りの作戦会議等も行われている大事な拠点となっています。



(https://www.facebook.com/HidamariCafeNarusedai/?ref=embed_page#)

<2> 町田ゼルビアとの連携

1) ゼルビーくんの学園祭参加

2022年10月29日、実行委員会が主体で企画・交渉し、FC町田ゼルビアのマスコット・ゼルビーくんが学園祭へ参加してくれました。予想していた以上にゼルビーくんの人気があり、写真撮影が多く、地域との交流も実現できました。



2) YouTubeチャンネル

本学の薬用植物園がFC町田ゼルビアの公式YouTubeチャンネル「町田ってどんなまちだ」で紹介されました。

(<https://www.youtube.com/watch?v=vBxXVofSsRg>)

番組タイトル：「町田ってどんなまちだ」に薬用植物園が登場

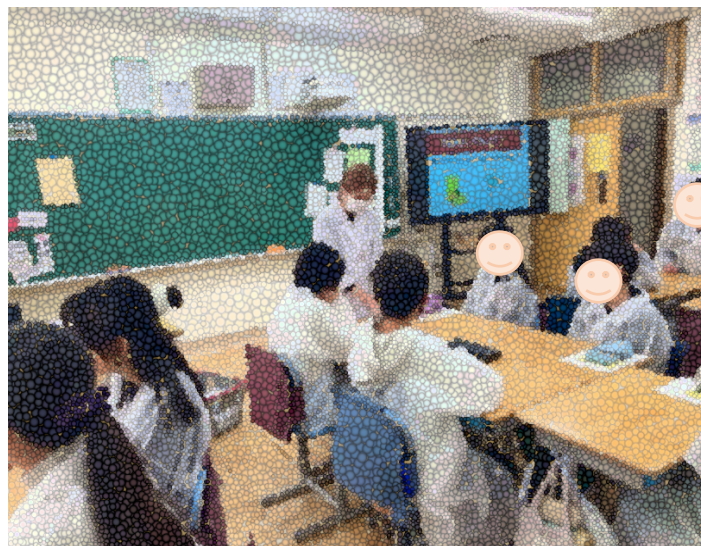


昭和薬科大学 薬用植物園



<3> 薬物乱用防止教育の活動

2022-2024年度、薬物乱用防止教育の推進のための薬物乱用防止教室を町田の小学校4校で行いました。2023年度は鶴川中学校、2024年度は南成瀬中学校でも実施できました。



9. 編集後記

- ・ 本学は、東京都町田市にある唯一の医療系大学であり、医療、健康、福祉の分野で高度な知識と技術を持つ薬剤師を育成し、地域の発展に貢献することを目指しています。今後も大学と地域社会が連携し、地域のさまざまな世代や立場の人々が学び、成長できる機会を、学生とともに提供していきたいと考えています。
- ・ 今年度から地域連携センター運営委員となりました。初年度でわからないことが多い中でしたが、高校生向け合同説明会などにも参加し、よい経験ができました。
- ・ 地域連携センターが2020年4月に発足して早5年、色々な仕事に携わってきました。大学での研究や教育とはまた違った視点で様々な仕事を楽しみながら、非常に貴重な経験をできています。その中でも、さがまちカレッジで中高生を対象とした実験講座は軌道に乗りつつあり、今後も継続していければと思っています。
- ・ 近隣の薬剤師の先生方のお話をお聞きすることができ、大変貴重な経験ができています。大学が地域の活性化に関わることは大変重要なことと思いますので、今後はより地域の方々に関われる活動ができたかと考えております。
- ・ 委員会メンバーとして初年度だった為、当初はわからない事も多くご迷惑をおかけしました。本委員会に所属した事で、教員の先生方が学外でも色々な講座を持ち、地域の方々へ向けた活動をしている事がわかり、学びの多い1年となりました。ありがとうございました。
- ・ 地域活動が活発になってきて、活動に参加する学生や講演会の受講者が増えたりして、とても嬉しいです。
- ・ 何もわからないまま1年が過ぎてしまいました。興味深かったのは、本学で行われた「中学生・高校生向け企画、さがまちカレッジ夏休み講座」の実験です。
- ・ 様々なイベントを継続してきたことで、大学と地域とのつながりが徐々に強くなってきていると感じています。今後も大学の特性を生かして地域社会に貢献ができるよう、努めていきたいと思っています。
- ・ 地域連携センターの委員として、生涯学習講座の企画・運営に携わってきました。町田市薬剤師会の皆さまと協議を重ねながら、楽しく取り組むことができたと感じています。直近の生涯学習講座では、過去最多の117名にご参加いただき、大変嬉しく思います。今後も、地域住民ならびに薬剤師の皆様の学びを支援できるよう努めてまいります。
- ・ 多様な展開をするためにはバイタリティーが必要と感じた1年でした。
- ・ 大学が地域の知の拠点として、地域に根差し愛され誇りに思われるには、まだまだ道半ばです。一步一步進めていきたいです。
- ・ やればやるほど新しいつながりができ、活動も広がりますが、仕事も増えてしまうところが玉にキズ。地域交流の場で、学生が教室で見ているのとは異なる、いきいきと輝く表情を見せてくれると、意義を再確認でき、またやる気が出ます。

2022年度地域連携センター運営委員会

委員長	吉永真理
幹事	唐澤 悟
委員	渡部一宏
	石田寛明
	梶川瑞穂
	神林 弾
	佐々木兵馬
	高田公彦
	谷口 泉
	牧野泰靖

2023年度地域連携センター運営委員会

委員長	吉永真理
幹事	唐澤 悟
委員	渡部一宏
	石田寛明
	梶川瑞穂
	神林 弾
	菊池千草
	佐々木兵馬
	谷口 泉
	長谷川仁美
	牧野 泰靖

2024年度地域連携センター運営委員会

委員長	吉永真理
幹事	唐澤 悟
委員	渡部一宏
	石田寛明
	梶川瑞穂
	神林 弾
	菊池千草
	酒井理香
	谷口 泉
	橋本善光
	長谷川仁美
	伏見有希子

発行：昭和薬科大学地域連携センター
発行日：2025年3月31日